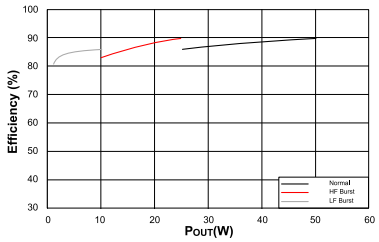
UCC25661x-Q1 ファミリ 軽負荷時の効率が最適化され、V_{IN}/V_{OUT} 範囲が広い 750kHz LLC コントローラ

1 特長

- 50kHz～750kHz の全負荷スイッチング周波数
- IPPC 制御による広い入出力 LLC (WLLC) 動作
- 強化された軽負荷管理機能:
  - 高周波数パルス スキップによる軽負荷時の効率向上
  - 低周波数バーストによるスタンバイ電力の低減
  - 可聴周波数範囲をスキップすることで可聴ノイズを低減
  - スタンバイ電力をさらに低減するのに役立つ PFC オン / オフ制御信号を内蔵
- 内蔵共振コンデンサ電圧シンセサイザによる、信号の信頼性の向上と高い起動周波数のサポート
- 容量性領域の自動回避
- 適応型ソフトスタートにより起動時の突入電流を最小化
- 高電圧起動機能を内蔵 (UCC256612-Q1、UCC256614-Q1)
- +0.6 および -1.2A ゲート駆動を内蔵
- 保護機能を完備
  - 50ns の過電流保護 (OCP)、サイクルごとの電流制限
  - 過電圧保護 (OVP)、内部および外部過熱保護 (OTP)
  - 19V VCCP クランプを内蔵した入力および VCCP UVLO
- 高電圧部の間隔を確保するためにピンを削除した SOIC-14 パッケージ

2 アプリケーション

- セル モニター ユニットと バッテリー ジャンクション ボックス
- HV/EV (ハイブリッド車と電気自動車) の OBC (オンボード チャージャ) と DC/DC コンバータ
- EV 充電インフラ
- HEV/EV のインバータおよびモーター制御
- ゾーン コントローラとボディドメイン コントローラ



代表的な効率曲線

3 説明

UCC25661x-Q1 ファミリ は、強化された軽負荷管理機能と複数の保護機能に加えて、入力電力比例制御 (IPPC) 方式を実装した高周波数 LLC コントローラです。

IPPC は LLC コンバータの制御範囲を拡大し、高電圧から低電圧 (HV-LV) への冗長補助、キー オフ、バイアス絶縁型電源など広い入力アプリケーションの設計を簡素化します。また、IPPC は、軽電気自動車のバッテリー充電器 (スクーター、モペット、ゴルフカート、フォークリフト) などの幅広い出力アプリケーションの設計を簡素化します。

UCC25661x-Q1 ファミリ の強化された軽負荷管理機能は、可聴ノイズを最小限に抑えながら、効率を改善します。バースト モードで動作する場合、充電器アプリケーション スタンバイ消費電力を最小化するため、UCC25661x-Q1 ファミリ は PFC コントローラを直接無効化できます。

適応型ソフトスタートおよび逆方向回復回避方式に加えて、自動容量性領域回避方式により、FET を損傷させる可能性があるモードで本デバイスが動作することがないようにしています。この方式により、プリバイアスされた負荷での動作にコントローラは最適です。

UCC25661x-Q1 ファミリ は、信頼性の高い電源の設計に役立つ堅牢な保護機能を備えています。UCC25661x-Q1 ファミリ には、高電圧起動 (HVSU) や広いゲイン範囲 (EGR) をサポートするオプションがあります。*「デバイス比較」表*の詳細を参照してください。

パッケージ情報

部品番号	パッケージ (1)	パッケージ サイズ(2)
UCC25661x-Q1 ファミリ	DDB (SOIC、16)	9.9mm × 3.9mm

(1) 利用可能なすべてのパッケージについては、データシートの末尾にある注文情報を参照してください。
(2) パッケージ サイズ (長さ × 幅) は公称値であり、該当する場合はピンも含まれます。

ADVANCE INFORMATION

このリソースの元の言語は英語です。翻訳は概要を便宜的に提供するもので、自動化ツール (機械翻訳) を使用していることがあり、TI では翻訳の正確性および妥当性につきましては一切保証いたしません。実際の設計などの前には、ti.com で必ず最新の英語版をご参照くださいますようお願いいたします。

ADVANCE INFORMATION

目次

1 特長.....1
2 アプリケーション.....1
3 説明.....1
4 デバイス比較表.....3
5 ピン構成および機能.....3
6 仕様.....6
6.1 絶対最大定格.....6
6.2 ESD 定格.....6
6.3 推奨動作条件.....7
6.4 熱に関する情報.....7
6.5 電気的特性.....8
6.6 スイッチング特性.....11
6.7 代表的特性.....12
7 詳細説明.....16
7.1 概要.....16
7.2 機能ブロック図.....18
7.3 機能説明.....19
7.4 保護機能.....29
7.5 デバイスの機能モード.....33
8 アプリケーションと実装.....42
8.1 アプリケーション情報.....42
8.2 代表的なアプリケーション.....42
8.3 電源に関する推奨事項.....58
8.4 レイアウト.....60
9 デバイスおよびドキュメントのサポート.....63
9.1 ドキュメントの更新通知を受け取る方法.....63
9.2 サポート・リソース.....63
9.3 商標.....63
9.4 静電気放電に関する注意事項.....63
9.5 用語集.....63
10 改訂履歴.....63
11 メカニカル、パッケージ、および注文情報.....64

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

4 デバイス比較表

発注用製品型番	UCC256612-Q1	UCC256613-Q1	UCC256614-Q1
高電圧スタートアップを内蔵	●		●
X コンデンサ放電機能を内蔵			
拡張ゲイン範囲 (EGR)			●
出力電圧 (OVP) ラッチ			
I_{FB} の標準値 (uA)	160	160	80
$R_{FBInternal}$ 標準値 (kΩ)	50	50	100
FB クランプ電流の標準値 (uA)	175	175	175
バルク ブラウン アウト Isink (uA)	5	5	1
バルク ブラウンアウト コンパレータ ヒステリシス (V)	0.1	0.1	0.05
Isense スレッショルド定常状態 (mV)	150	150	150
TSET 強制バースト モード保持イネーブル			
ソフト オン/ソフト オフ イネーブル			
VCR 積分器のゲインは、TSET の差動電圧計算によって設定されます	●	●	●
LF バースト中の PFC オン/オフ			●
IPPC イネーブル	●	●	●
OPP フォルト イネーブル	●	●	●
ZCS フォルト イネーブル	●	●	●
BLK OVP			

5 ピン構成および機能

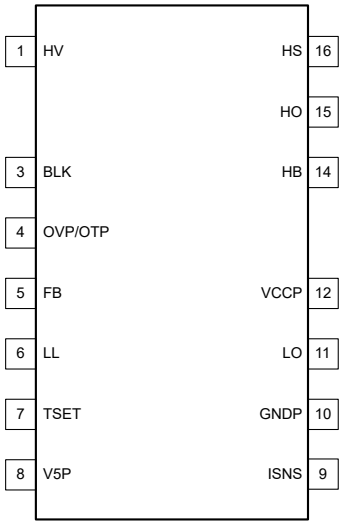


図 5-1. DDB パッケージ 16 ピン SOIC、ピン 2 および 13 を削除 (上面図)

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

表 5-1. ピンの機能

ピン		I/O	説明
名称	番号		
HV	1	I	高電圧 (HV) スタートアップ。 このピンを使用して、HV (高電圧) の起動を実行します。起動完了後、HV ピンは AC 存在検出に使用されます。このピンは整流された AC ライン (UCC256614-Q1 の場合) または入力バルク コンデンサ (UCC256612-Q1 の場合) に接続されます。
	2	-	なし。高電圧ピンと低電圧ピンの間の沿面距離に対応する HV スペーサー
BLK	3	I	フィードフォワード制御用のバルク DC 電圧センシングと入力。 バルク コンデンサの正端子と GNDP の間の分圧抵抗を介して BLK を接続し、LLC コンバータの開始電圧と停止電圧スレッショルドを設定します。詳細については、セクション 7.3.5.1 を参照してください。
OVP/OTP	4	I	過電圧保護および外部過熱保護入力。 OVP/OTP を NTC 抵抗を介して GNDP に、ツェナー ダイオードを介して VCCP に接続します。詳細については、セクション 7.3.5.2 を参照してください。
FB	5	I	帰還制御入力。 絶縁型帰還回路のフォトカプラのコレクタ ピンに FB を接続します。詳細については、セクション 7.3.3 を参照してください。
LL	6	I	軽負荷動作とバースト モード閾値設定入力。 LL は、V5P と GNDP の間の分圧抵抗の中心ノードに接続します。LL ピンのインピーダンスと電圧を使用して、高周波および低周波数のバーストモード動作のスレッショルドを選択します。詳細については、セクション 7.5.3 を参照してください。
TSET	7	I/O	VCR シンセサイザの時間定数が入力と PFC オン/オフ出力を設定 (UCC256604) 。 V5P と GNDP の間にある分圧抵抗のセンター ノードに TSET を接続して、内部共振積分器 (VCR シンセサイザ) の時定数、最大デッドタイム、および IPPC が維持される最小スイッチング周波数を設定します。 コントローラの電源投入時に位相のプログラミングが終了した後、TSET ピンにより UCC256614-Q1 バリアントに PFC オン/オフ信号が供給されます。
V5P	8	P	5V 内部レギュレータ出力。 V5P と GNDP の間にデカップリング コンデンサ (1μF を 4.7μF に推奨) を接続します。このコンデンサは、V5P に近づけて配置します。
ISNS	9	I	共振回路電流検出入力。 ISNS ピンを、直列微分コンデンサと電流センス抵抗を経由して GNDP へ共振コンデンサに接続します。 このピンは、微分共振容量電圧を検出します。この信号は内部で次の目的で使用されます。 1.制御信号を生成します 2.OCP とサイクル単位の電流制限 3.静電容量性領域の回避。 詳細については、セクション 8.2.2.17 を参照してください。
GNDP	10	P	グランド リファレンス ピン。GNDP は、1 次側バルク コンデンサの負端子に接続します。
LO	11	O	ローサイド スイッチ ゲートドライバ出力・ローサイド スイッチのゲート端子を最小のゲートドライブ回路のループ面積で接続します。
VCCP	12	P	IC 電源電圧ピン。 VCCP と GNDP の間にも、低 ESR のセラミック デカップリング コンデンサを接続します。LLC トランスの補助バイアス巻線などのアプリケーションでは、VCCP ピンをダイオードを介してバイアス巻線に接続します。HV スタートアップがディセーブルになっているアプリケーションでは、VCCP は補助バイアス電源から供給されます。 VCCP ピンは内部で 19V にクランプされています。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 5-1. ピンの機能 (続き)

ピン		I/O	説明
名称	番号		
	13	該当なし	ピンの欠落。高電圧ピンと低電圧ピンの間の沿面距離に対応する高電圧スペーサー。
HB	14	P	ハイサイド ゲートドライバのバイアス入力。HB ピンと HS ピンの間にコンデンサ (0.1μF 最小値) を接続します。詳細については、セクション 8.3.2 を参照してください。
HO	15	O	ハイサイド スイッチ ゲートドライバ出力。最小のゲートドライブ回路のループ面積でハイサイド スイッチのゲート端子に接続します。
HS	16	P	ハイサイド ゲートドライバのリターン パスおよびスイッチング ノード接続の入力。LLC コンバータのハーフ ブリッジ構造のスイッチング ノードに接続します。このピンの電圧によって、アダプティブ デッド タイムを決定します。詳細については、セクション 7.3.4 を参照してください。

詳細については、セクション 8.2 を参照してください。

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

6 仕様

6.1 絶対最大定格

動作自由空気温度範囲全体で (特に記述のない限り) 、すべての電圧値は GND を基準にしています。電流は指定されたピンに流れ込む方向が正、ピンから流れ出る方向が負です。(1)

		最小値	最大値	単位
入力電圧	HV、HB	-0.3	700	V
	ISNS	-6.5	6.5	V
	BLK、LL、TSET	-0.55	5.5	V
	HB - HS	-0.3	25	V
	VCCP	-0.55	30	V
	OVP/OTP	-0.55	5.5	V
5V	DC	-0.55	5.5	V
HO 出力電圧	DC	HS - 0.3	HB + 0.3	V
	過渡応答、100ns 未満	HS - 2	HB + 0.3	
LO 出力電圧	DC	-0.3	VCCP+ 0.3	V
	過渡応答、100ns 未満	-2	VCCP + 0.3	
フローティング グランド スルーレート	dV_{HS}/dt	-200	200	V/ns
HO、LO パルス電流	I_{OUT_PULSED}	-0.6	1.2	A
接合部温度範囲	T_J	-40	150	℃
保管温度範囲、T_{stg}	T_{stg}	-65	150	
リード温度	半田付け、10 秒		300	
	リフロー		260	

(1) 「絶対最大定格」を上回るストレスが加わった場合、デバイスに永続的な損傷が発生する可能性があります。これはストレスの定格のみに関するものであり、絶対最大定格において、または「推奨動作条件」に示された値を超える他のいかなる条件でも、本製品が正しく動作することを暗黙的に示すものではありません。絶対最大定格の状態が長時間続くと、デバイスの信頼性に影響を与える可能性があります。

6.2 ESD 定格

			値	単位
$V_{(ESD)}$	静電放電	人体モデル (HBM)、ANSI/ESDA/JEDEC JS-001、HV、HO、HS、HB ピン(1)に準拠	±1000	V
		人体モデル (HBM)、ANSI/ESDA/JEDEC JS-001 に準拠、他すべてのピン(1)	±2000	
		デバイス帯電モデル (CDM)、JEDEC 仕様 JESD22-C101 に準拠、すべてのピン (2)	±500	

(1) JEDEC ドキュメント JEP155 には、500V HBM であれば標準的な ESD 管理プロセスにより安全な製造が可能であると記載されています。
(2) JEDEC ドキュメント JEP157 には、250V CDM であれば標準的な ESD 管理プロセスにより安全な製造が可能であると記載されています。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.3 推奨動作条件

特に記述のない限り、すべての電圧値は GND を基準にしており、-40℃ < T_J = T_A < 125℃であり、電流は、指定されたピンに流れ込む方向が正、ピンから流れ出る方向が負です。

		最小値	公称値	最大値	単位
HV、HS	入力電圧			640	V
V_{VCCP}	電源電圧		15	18.5	V
HB - HS	ドライバ ブートストラップ電圧	10	14	17.5	V
C_B	HB から HS へのセラミック バイパス容量	0.1		5	µF
C_{VCCP}	VCCP ピン デカップリング容量	33		470	µF
$I_{VCCPMAX}$	VCCP の最大入力電流			100	mA
T_A	動作時の周囲温度	-40		125	℃

6.4 熱に関する情報

熱評価基準[1]		UCC25661x D (SOIC) 14 ピン	単位
$R_{\theta JA}$	接合部から周囲への熱抵抗	74.7	℃/W
$R_{\theta JC(top)}$	接合部からケース (上面) への熱抵抗	30.7	℃/W
$R_{\theta JB}$	接合部から基板への熱抵抗	31.8	℃/W
Ψ_{JT}	接合部から上面への特性パラメータ	4.4	℃/W
Ψ_{JB}	接合部から基板への特性パラメータ	31.4	℃/W

(1) 従来および新しい熱評価基準値の詳細については、アプリケーション レポート『半導体および IC パッケージの熱評価基準値』、SPRA953 を参照してください。

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

6.5 電気的特性

特に記述のない限り、すべての電圧値は GND を基準にしており、-40℃ < T_J < 125℃、VCC =15V であり、電流は、指定されたピンに流れ込む方向が正、ピンから流れ出る方向が負です。

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
電源電圧						
VCC_{Short}	このスレッショルドを下回ると、低減起動電流を使用		0.6	1	1.4	V
$VCC_{ReStartJfet}$	このスレッショルドを下回ると、JFET を再有効化。			10.2		V
$VCC_{ReStart}$	起動フェーズ中に VCC がこのレベルを下回ると、HV 起動が再度イネーブルになります		12.5	13	13.5	V
$VCC_{StartSelf}$	VCC がこのレベルを上回っている場合に起動します		13.5	14	14.5	V
$VCC_{StartExt}$	VCC がこのレベルを上回っている場合に起動します		10.5	10.9	11.3	V
$VCC_{StopSwitching}$	スイッチングはこのスレッショルドを下回ると停止します		9	9.5		V
VCC_{UVLOr}	VCC 低電圧誤動作防止電圧 (立ち上がり)		7.25	7.5	7.82	V
VCC_{UVLOf}	VCC 低電圧誤動作防止電圧トヒステリシス		6.5	6.8	7.1	V
VCC_{Hold_r}	起動プログラミング フェーズ中の Jfet ストップ電圧		7.9	8.2	8.5	V
VCC_{Hold_f}	スタートアップ プログラミング フェーズ中の Jfet 開始電圧		7.65	7.9	8.15	V
VCC_{Shunt}	VCC 内部クランプ電圧			19		V
$IVCC_{Clamp}$	VCC 内部クランプ電流			15		mA
VCC_OV	VCC OVP スレッショルド			20.5		V
電源電流						
$I_{CCSleep}$	バースト オフ期間に VCC レールから引き出される電流			800		µA
I_{CCRun}	ゲートがスイッチング動作中に VCC ピンから引き出される電流。ゲート電流を除く	デッド タイム = 1µs 最大デッド タイム		8		mA
電圧が供給されます						
V5P	電圧[(1)]が調整されています	無負荷	4.75	5	5.25	V
	電圧が調整されています	10mA 負荷	4.75	5	5.25	V
$V5P_{UVLO}$	V5P 低電圧誤動作防止電圧[(1)]			4		V
$I_{V5PStartupCurrLimit}$	VCCP < $VCC_{StartSelf}$ のときに、ピンに引き込むことができる最大電流[(1)]	VCCP = 15V		6		mA
$I_{V5PCurrLimit}$	V5P (IV5P = 15mA)	VCCP = 15V	10.2			mA
高電圧起動						
$I_{VCC_Charge_Low}$	HV ピンからの VCCP 充電電流の低減	V_{HV} = 20V, VCC = 0V (UCC256612-Q1, UCC256614-Q1)	0.23	0.44	0.65	mA
$I_{VCC_Charge_High}$	VCCP 完全充電電流	V_{HV} = 20V, VCC = 4V, (UCC256612-Q1, UCC256614-Q1)	7.5	10	13.8	mA
バルク電圧検知						
$V_{BLKStartHys}$	BLK 電圧コンパレータのヒステリシス [(1)]	UCC256614-Q1 の場合	0.04	0.05	0.06	V

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.5 電気的特性 (続き)

特に記述のない限り、すべての電圧値は GND を基準にしており、-40℃ < T_J < 125℃、VCC =15V であり、電流は、指定されたピンに流れ込む方向が正、ピンから流れ出る方向が負です。

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
$V_{BLKStartHys}$	BLK 電圧コンパレータのヒステリシス (1)	UCC256612-Q1、UCC256613-Q1 の場合	0.09	0.1	0.11	V
$V_{BLKStop}$	LLC の動作を停止させる BLK 電圧		0.98	1	1.02	V
I_{BLKHys}	BLK ヒステリシス電流	UCC256614-Q1 の場合		1		μA
I_{BLKHys}	BLK ヒステリシス電流	UCC256612-Q1、UCC256613-Q1 の場合		5		μA
フィードバック ピン						
$R_{FBInternal}$	内部プルダウン抵抗値	UCC256614-Q1 の場合	85	100	115	kΩ
$R_{FBInternal}$	内部プルダウン抵抗値	UCC256612-Q1、UCC256613-Q1 の場合	42.5	50	57.5	kΩ
I_{FB}	FB 内部電流源	UCC256614-Q1 の場合	68	80	92	μA
I_{FB}	FB 内部電流源	UCC256612-Q1、UCC256613-Q1 の場合	136	160	184	μA
V_{FB}	FB ピンのシンク電流が (I_{FB-} - 50μA) であるときの FB ピンの電圧	Iopto = 0.37 * IFB	3.3	3.5	3.7	V
ΔV_{FB}	FB ピンのシンク電流範囲 (Iopo = 0.37 * IFB から Iopo = 0.94 * IFB) での FB ピン電圧変動				0.6	V
ΔV_{clamp}	FB ピンのシンク電流範囲が (Iopto = 0.94*IFB) から (Iopto = 1.06*IFB) までのときの FB ピン電圧変動	(Iopto = 0.94*IFB) ～ (Iopto = 1.06*IFB)	0.3			V
$I_{FBclamp}$	FB がクランプされているときの最大 FB 内部電流源	UCC256614-Q1 の場合	75	87.5	100	μA
$I_{FBclamp}$	FB がクランプされているときの最大 FB 内部電流源	UCC256612-Q1、UCC256613-Q1 の場合	150	175	200	μA
$\Delta V_{FBclamp}$	FB ピンシンク電流の範囲が (Iopto = 1.06IFB) から (Iopto = IFB + 0.94 * IFBClamp) までであるときの FB ピン電圧変動	(Iopto = 1.06IFB) ～ (Iopto = IFB + 0.94*IFBClamp)			0.5	V
f_{-3dB}	帰還信号経路 -3dB カットオフ周波数(2)	VFBReplica (4.5V ～ 0.5V)	1			MHz
V_{FBOLP}	OLP 保護(1)			4.75		V
$TOLP_{Fault}$	OLP 保護時間(1)			100		ms
共振電流検知						
V_{ISNS_OCP}	定常状態での OCP スレッショルド	TSET オプション > 2.5V の場合 (1)	3.9	4	4.1	V
V_{ISNS_OCP}	定常状態での OCP スレッショルド	TSET オプション <2.5V の場合	3.4	3.5	3.6	V
$V_{ISNS_OCP_SS}$	ソフト スタート中の OCP スレッショルド		2.9	3	3.1	V
n_{OCP}	OCP フォルトがトリップされる前の OCP サイクル数(1)			7		
n_{OCP_SS}	スタートアップ時に OCP フォルトがトリップされるまでの OCP サイクル数(2)			50		
$V_{IpolarityHyst}$	ISNS 極性コンパレータのヒステリシス			40		mV
V_{ISNS_ZCS}	ソフト スタート後の ZCS コンパレータ + VE スレッショルド			150		mV
V_{ISNS_ZCSn}	ZCS コンパレータ - Ve スレッショルド、ソフト スタート後			-150		mV

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

6.5 電気的特性 (続き)

特に記述のない限り、すべての電圧値は GND を基準にしており、-40℃ < T_J < 125℃、VCC =15V であり、電流は、指定されたピンに流れ込む方向が正、ピンから流れ出る方向が負です。

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
$V_{ISNS_MINCURR_SS}$	ソフト スタート中の +VE ISNS スレッショルド			50		mV
$V_{ISNS_MINCURR_SSn}$	ソフト スタート時の -VE ISNS スレッショルド			-50		mV
t_{leb}	ZCS および OCP コンパレータ用のリーディング エッジ ブランキング(1)			250		nS
$TZCS_{Fault}$	ZCS イベントが一定時間存在する場合に検出された障害(2)	ZCS イベントは継続します		10		mS
ゲートドライバ						
V_{LOL}	LO 出力の Low 電圧	I_{sink} = 20mA			0.12	V
V_{RVCC} - V_{LOH}	LO 出力 high 電圧	I_{source} = 20mA			0.3	V
V_{HOL} - V_{HS}	HO 出力の Low 電圧	I_{sink} = 20mA			0.12	V
V_{HB} - V_{HOH}	HO 出力 high 電圧	I_{source} = 20mA			0.35	V
$V_{HB\text{-}HSUVLOFall}$	ハイサイド ゲートドライバ UVLO 立ち下がりスレッショルド		6.4	7.25	8	V
$V_{HB\text{-}HSUVLOHys}$	ハイサイド ゲートドライバ UVLO スレッショルド ヒステリシス		0.78	0.9	1.05	V
$I_{source_pk_HO}$	HO ピーク ソース電流(2)	VCCP = 12V で		-0.6		A
$I_{source_pk_LO}$	LO ピーク ソース電流(2)	VCCP = 12V で		-0.6		A
$I_{sink_pk_HO}$	HO ピーク シンク電流(2)	VCCP = 12V で		1.2		A
$I_{sink_pk_LO}$	LO ピーク シンク電流(2)	VCCP = 12V で		1.2		A
ブートストラップ						
$I_{BOOT_QUIESCENT}$	(HB - HS) 静止電流	HB - HS = 12V		60	70	µA
I_{BOOT_LEAK}	HB から GND への漏れ電流	V_{HB} = 600V		0.045	20	µA
$t_{ChargeBoot}$	充電ブート状態の長さ(1)		230	265	300	µs
ソフトスタート						
SSRamp	ソフトスタート ランプ時間(1)			25		ms
OVP/OTP						
Vclamp_otp1	0mA でのクランプ電圧(1)	クランプに流れる電流が 0mA の場合	1.35	1.5	1.65	V
Vclamp_otp2	1mA でのクランプ電圧(1)	クランプに流れる電流が 1mA の場合	2.9	3.5	4.1	V
I_{OTP}	BW/OTP ピンの電流ソース			100		µA
V_{OVPpos}	出力電圧 OVP- 立ち上がりスレッショルド			3.5		V
$VOTP_{Neg}$	OTP - スレッショルド立ち下がり			0.8		V
$OTP_{CompHys}$	OTP コンパレータのヒステリシス		60	90	130	mV
$OVP_{CompHys}$	OVP コンパレータのヒステリシス		60	100	145	mV
$OTPBlanking_{startup}$	起動時の OTP ブランキング時間			50		ms
$TOTP_{Fault}$	OTP フォルト検出時間			330		µs
$TOVP_{Fault}$	OVP 障害検出時間(2)			40		µs
TSET						
$I_{TSETPrgm}$	プログラミング用の TSET ピンのソース電流			10		µA

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.5 電気的特性 (続き)

特に記述のない限り、すべての電圧値は GND を基準にしており、-40℃ < T_J < 125℃、VCC =15V であり、電流は、指定されたピンに流れ込む方向が正、ピンから流れ出る方向が負です。

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
LL						
I_{LLPrgm}	バースト モード遷移スレッショルド 設定用の LL ピン ソース電流(2)			10		μA
t_{LLPrgm}	バースト モード遷移スレッショルド のプログラミング時間(2)			2		ms
アダプティブ デッドタイム						
dV_{HS}/dt	検出可能なスルー レート (立ち下がりスロープ) (2)		0.1		200	V/ns
FAULT 回復						
$t_{PauseTimeOut}$	一時停止タイマ(1)			1		s
サーマル シャットダウン						
T_{J_r}	サーマル シャットダウン温度(1)	温度上昇	125	150		℃
T_{J_H}	サーマル シャットダウン ヒステリシス(1)			20		℃

(1) 量産時にはテストを行っていません。特性により保証されています
(2) 量産時にはテストを行っていません。設計により保証されています

6.6 スイッチング特性

特に記述のない限り、すべての電圧値は GND を基準にしており、-40℃ < T_J = T_A < 125℃、VCC =15V であり、電流は、指定されたピンに流れ込む方向が正、ピンから流れ出る方向が負です。

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
$t_{r(LO)}$	立ち上がり時間	10% ～ 90%、1nF 負荷		30	60	ns
$t_{f(LO)}$	立ち下がり時間	10% ～ 90%、1nF 負荷		20	30	ns
$t_{r(HO)}$	立ち上がり時間	10% ～ 90%、1nF 負荷		30	60	ns
$t_{f(HO)}$	立ち下がり時間	10% ～ 90%、1nF 負荷		15	50	ns
$t_{DT(min)}$	最小デッド タイム(1)			50		ns
$t_{DT(max)}$	最大デッド タイム (デッド タイム異常) (1)	ZCS イベントは検出されません		1		μs
$t_{DT(max_ZCS)}$	最大デッド タイム (デッド タイム異常) (1)	ZCS イベントが検出されました		1.1		μs
$t_{ON(min)}$	最小ゲート オン時間			250		ns
$t_{ON(max)}$	最大ゲート オン時間			10		μs
$t_{Ipol(ZCS)}$	DT を終端するため IPOL 信号を使用できるブランキング時間	ZCS イベントが検出されました		500		ns

(1) 量産時にはテストを行っていません。設計により保証されています

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

6.7 代表的特性

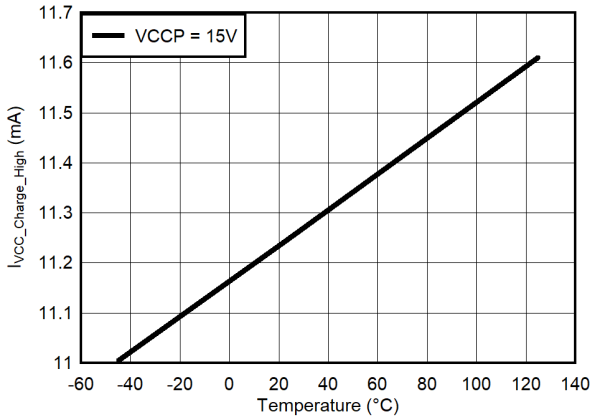


図 6-1. $I_{VCC_Charge_High}$ と温度との関係

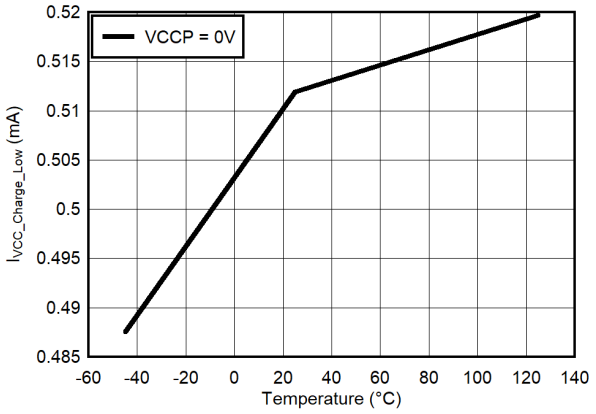


図 6-2. $I_{VCC_Charge_low}$ と温度との関係

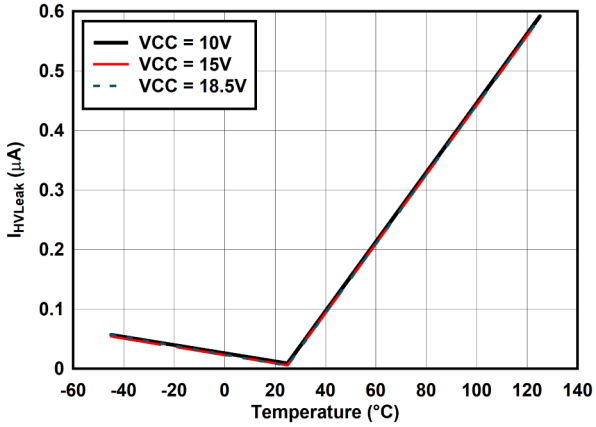


図 6-3. I_{HVLeak} と温度との関係

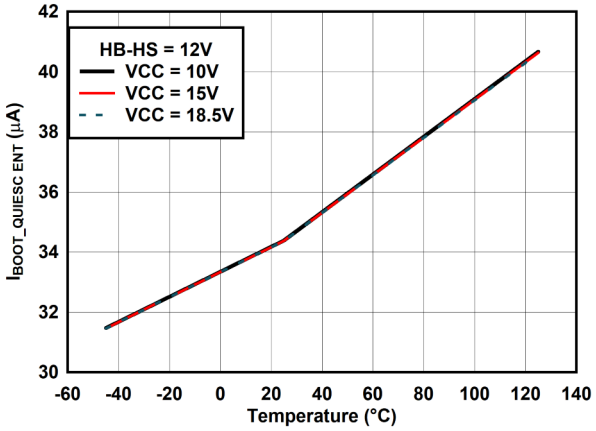


図 6-4. $I_{BOOT_QUIESCENT}$ と温度との関係

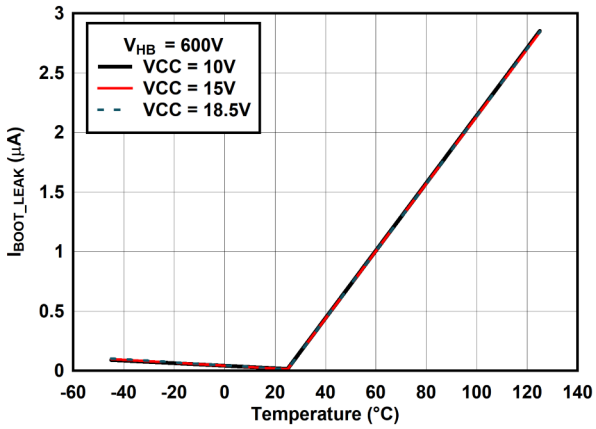


図 6-5. I_{BOOT_LEAK} と温度との関係

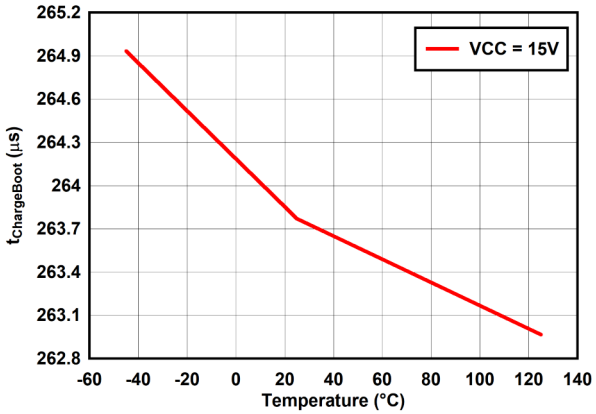


図 6-6. $t_{ChargeBoot}$ と温度との関係

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.7 代表的特性 (続き)

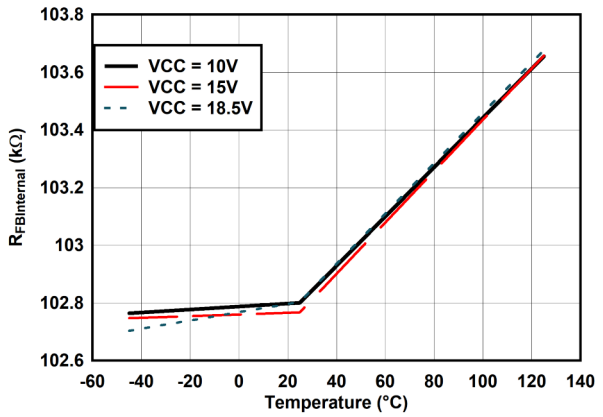


図 6-7. $R_{FBInternal}$ と温度との関係

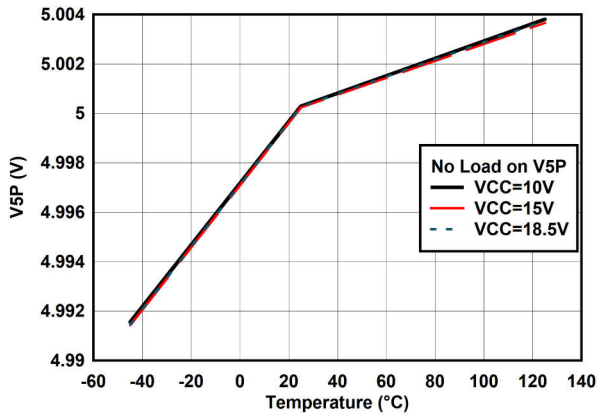


図 6-8. V5P (無負荷) と温度との関係

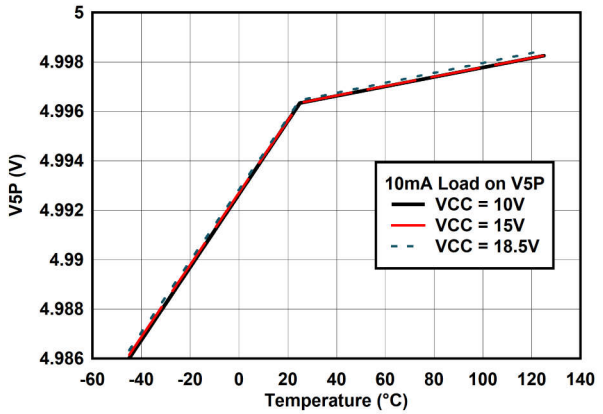


図 6-9. V5P (10mA 無負荷) と温度との関係

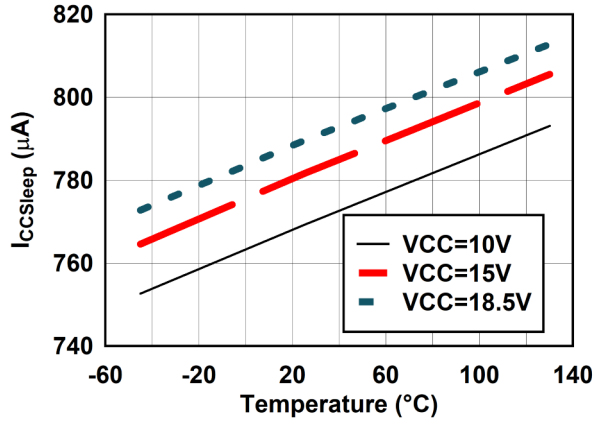


図 6-10. $I_{CCSleep}$ と温度との関係

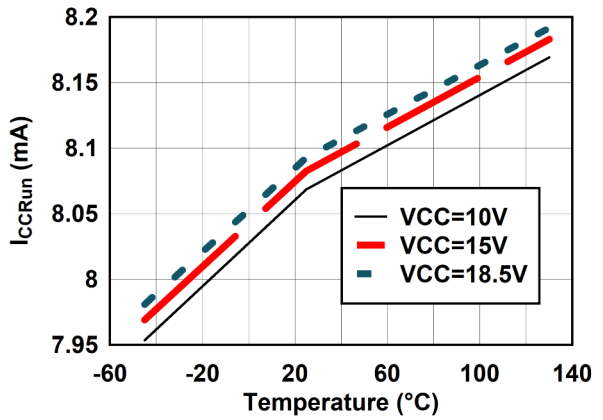


図 6-11. I_{CCRun} と温度との関係

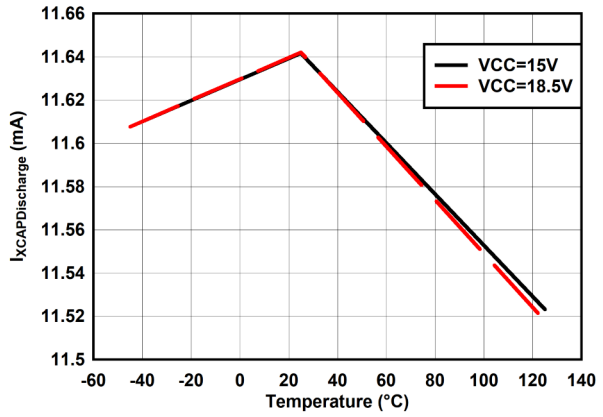


図 6-12. $I_{XCAPDischarge}$ と温度との関係

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

6.7 代表的特性 (続き)

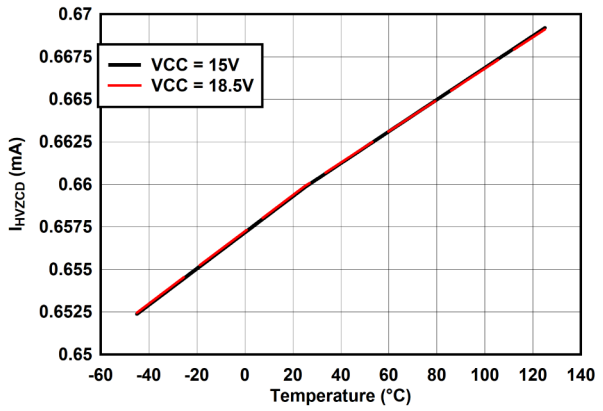


図 6-13. I_{HVZCD} vs 温度

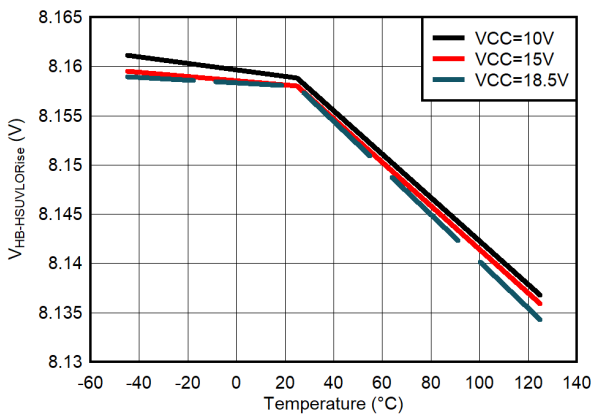


図 6-14. $V_{HB-HSUVLORise}$ と温度との関係

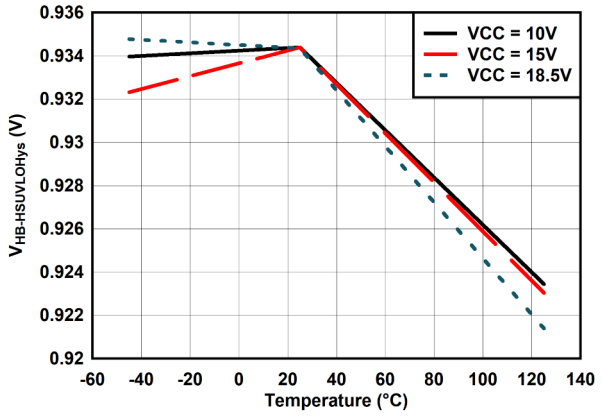


図 6-15. $I_{HB-HSUVLOHys}$ と温度との関係

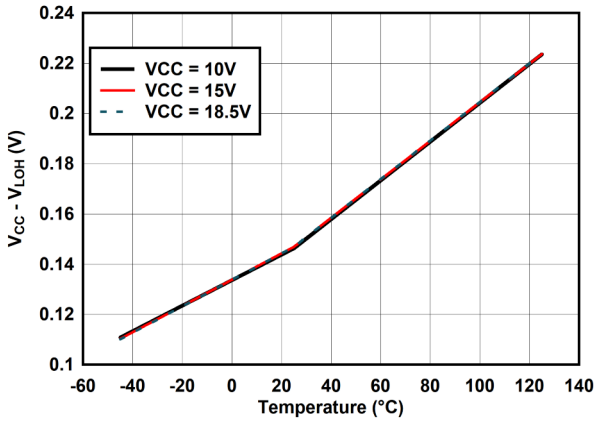


図 6-16. (V_{RVCC}- V_{LOH}) と温度との関係

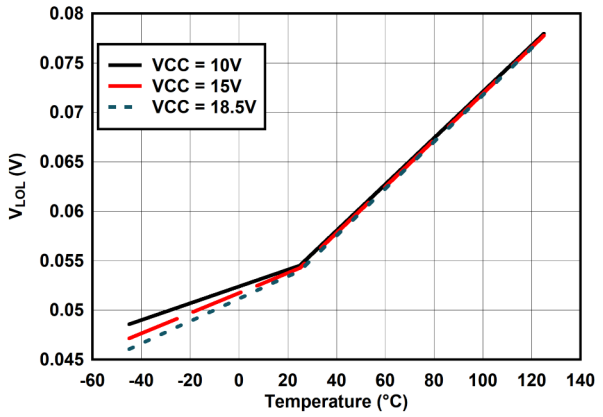


図 6-17. V_{LOL} と温度との関係

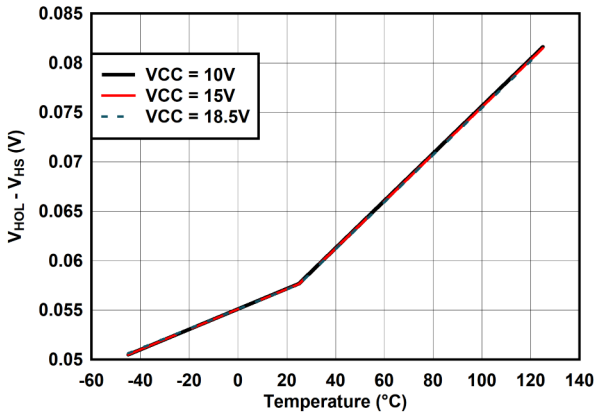


図 6-18. (V_{HOL}- V_{HS}) と温度との関係

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.7 代表的特性 (続き)

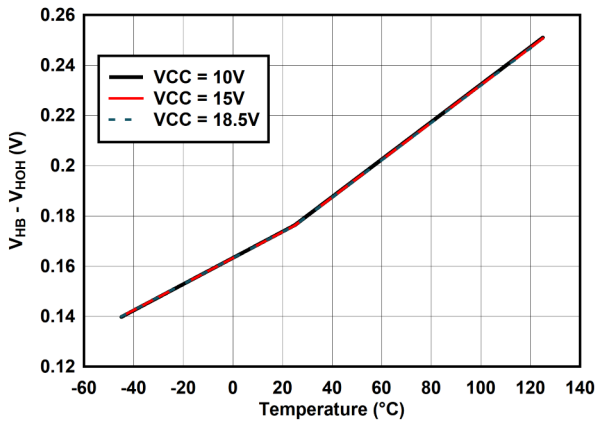


図 6-19. (V_{HB} - V_{HOH}) と温度との関係

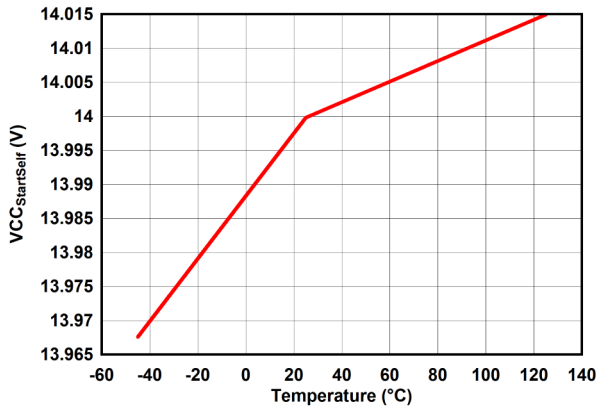


図 6-20. $VCC_{StartSelf}$ と温度との関係

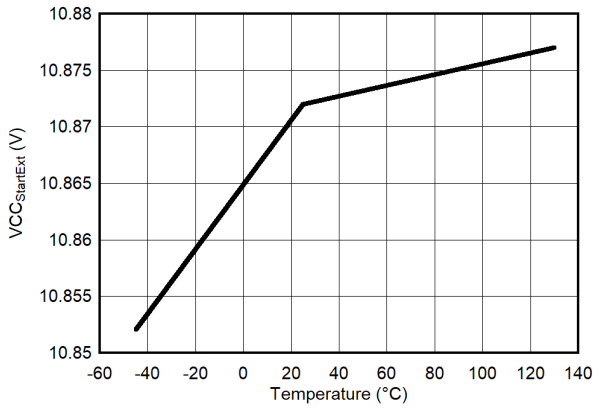


図 6-21. $VCC_{StartEXT}$ と温度との関係

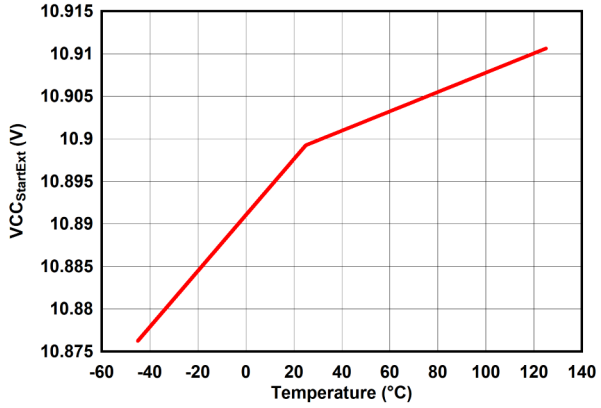


図 6-22. $VCC_{StartExt}$ と温度との関係

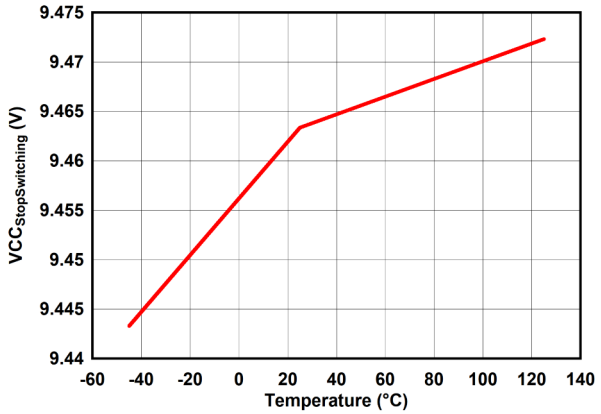


図 6-23. $VCC_{StopSwitching}$ と温度との関係

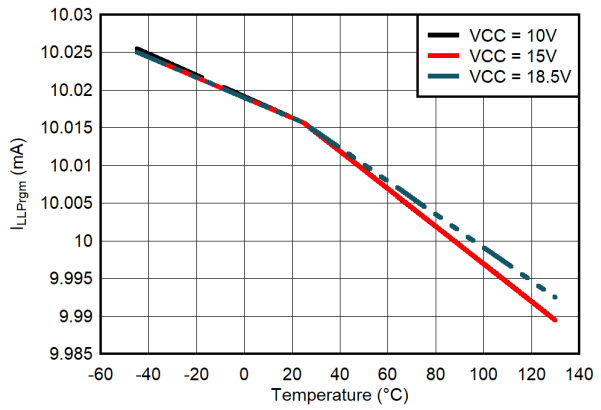


図 6-24. I_{LLPrgm} と温度との関係

ADVANCE INFORMATION

7 詳細説明

7.1 概要

UCC25661x-Q1 ファミリ は、絶縁型電源向けのフル機能 LLC 共振コントローラです。高度な統合と、広い入出力電圧動作、高い電力密度、LLC 電力段の信頼性向上に対応できるように、いくつかの設計機能を搭載しています。

このデバイスの新しい制御方式入力電力比例制御 (IPPC) は、電流モード制御に固有の優れた過渡性能を提供すると同時に、広い入力および出力電圧変動に対して入力電力と制御信号との線形関係を実現します。IPPC 制御により、広い入出力電圧変動にわたって、安定した軽負荷およびバースト モード性能での動作が可能になります。

UCC25661x-Q1 ファミリ の一部の新機能は、以下のように規定されています。

- IPPC 制御により、幅広い入出力電圧動作で、優れたバースト モードと動的応答を実現します。
- 可聴ノイズを低減しながら軽負荷の効率を向上させる新しい動作モード。
  - 高周波数 (HF) パルス スキップによる軽負荷時の効率向上
  - スタンバイ時の消費電力を低減するための低周波数 (LF) バースト モード。
  - 軽負荷/バースト モードのスレッショルドをプログラム可能。
  - 入力電圧の変化に対応する、適応型のバースト モード スレッショルド調整。
- 最大 750kHz の全負荷スイッチング周波数により、電力密度の高い設計が可能になります。
- 共振電流検出と内部制御電圧生成を組み合わせることで、制御の堅牢性が向上します。
- 入力電圧フィード フォワード。
- 拡張ゲイン範囲 (EGR)。EGR の利点は次のとおりです。
  - IPPC に加えて、より広い入出力電圧範囲のアプリケーションに対して、より優れたサポートを提供します
  - PFC が無効になっている広い入力電圧範囲から電力の可用性が向上します
  - 負荷の供給中に PFC をディセーブルにできるので、軽負荷時のシステム効率を向上させます
- 保護機能を内蔵しています。
  - 高速な 50ns サイクルごとの電流制限。
  - 短絡状態で保護するための OCP 障害。
  - 過電力保護 (OPP) により、ピーク入力電力を制限。
  - ZCS (ゼロ電流スイッチング) 回避方式により、容量性領域動作を排除します。
  - 適応型ソフト スタートにより突入電流を低減し、スタートアップ時の逆回復が不要になります。
  - 外部 OVP/OTP 保護。
  - 入力およびバイアス電源 (VCCP) UVLO。
  - 入力電圧フィード フォワード。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

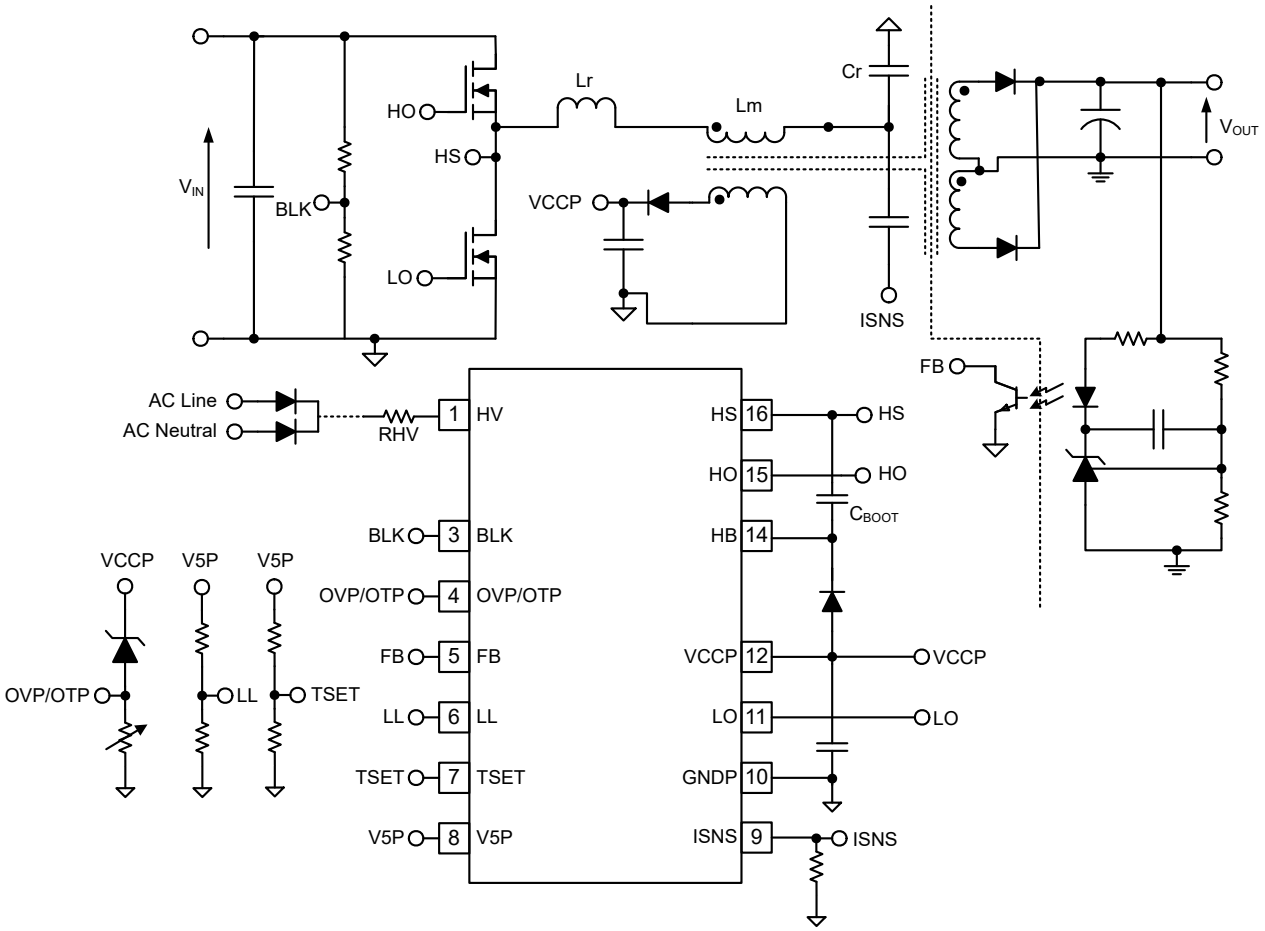
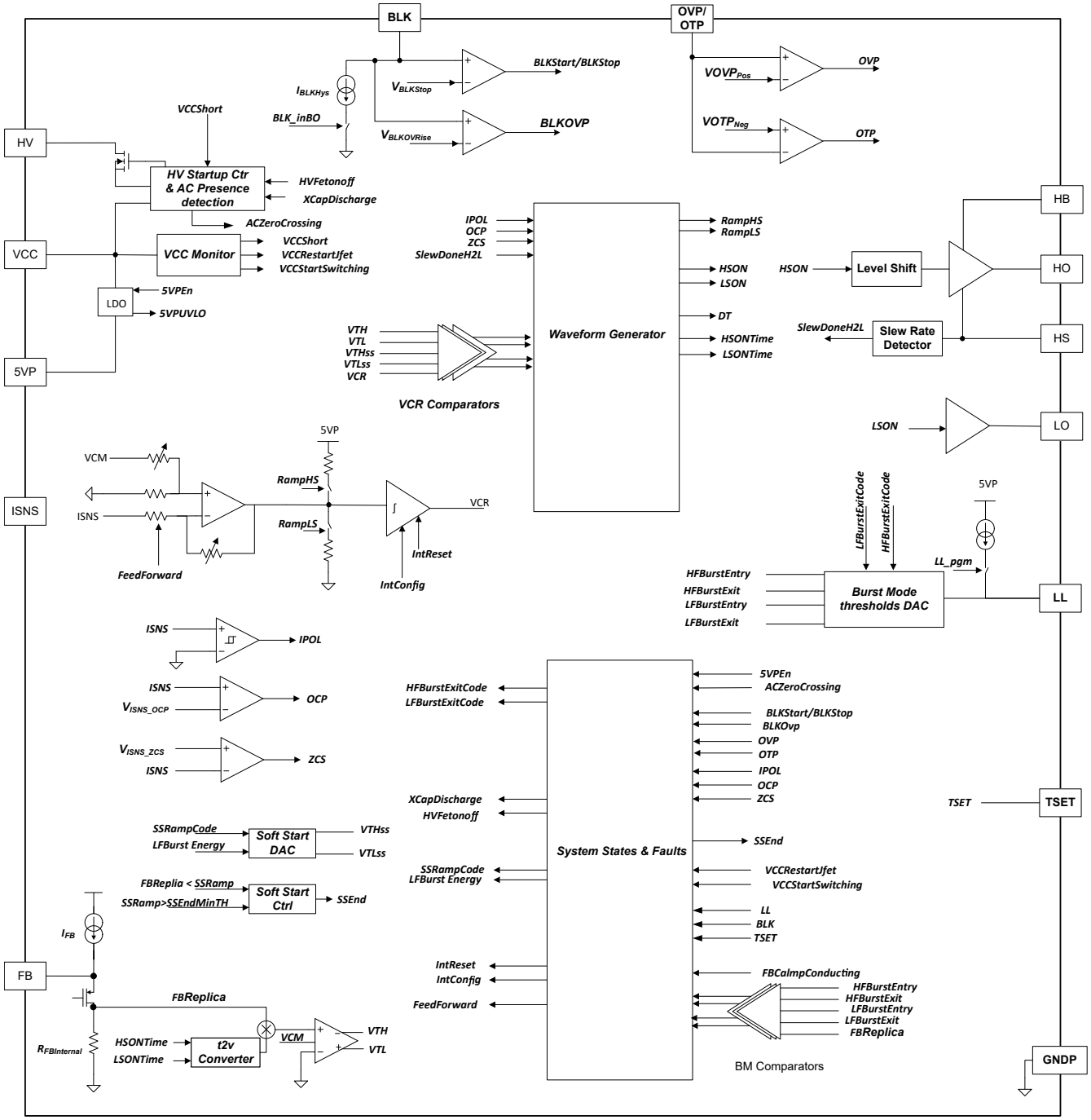


図 7-1. アプリケーション概略回路図

ADVANCE INFORMATION

7.2 機能ブロック図



ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.3 機能説明

7.3.1 入力電力比例制御

TI の LLC コントローラは、ヒステリシス ハイブリッド制御 (HHC) と呼ばれるバージョンの充電制御を使用しています。UCC25661x-Q1 ファミリ LLC コントローラには、入力電力比例制御 (IPPC) と呼ばれる HHC の改良版が使用されています。制御信号がスイッチング周波数に比例する従来の直接周波数制御と比較すると、従来の電荷制御方式では過渡応答を高速化しながら、電力段の伝達関数が 1 次システムになるため補償回路設計が簡単になります。従来の充電制御では、制御信号は入力電流とスイッチング周波数の両方によって決定されます。IPPC は、制御信号がスイッチング周波数に依存することを大幅に低減し、入力と出力の電圧変動の影響を最小限に抑えることができます。

IPPC には次のような利点があります。

- 制御信号を入力電力に比例させます。
- 広い LLC (WLLC) 動作アプリケーションで一貫したバースト モードと全負荷性能。
- 高速な負荷過渡性能を維持し、ライン過渡特性を改善。

UCC25661x-Q1 ファミリ は、容量 C_{ISNS} と抵抗 R_{ISNS} からなる外付け微分器により ISNS ピンの共振タンク電流を測定します。ISNS ピンの電圧は VCR シンセサイザ ブロックに組み込まれ、内部 VCR 信号 *VCR_synth* を形成します。

VCR シンセサイザ ブロックは、BLK ピン電圧に基づいてフィード フォワード ゲインを適用し、ランプ補償を適用して、補償された内部 VCR 信号を生成します。

次に、補償された内部 VCR 信号を 2 組のスレッショルドと比較し、ハイサイド スイッチのターンオフ (V_{TH}) およびローサイド スイッチのターンオフ V_{TL}) を制御します。スレッショルド V_{TH} および V_{TL} は、内部制御信号 FBReplica と、前の半スイッチング サイクルからのハイサイドおよびローサイド スイッチのオン時間から生成されます。ソフト スタート中、内部ソフト スタート ランプに基づいて V_{TH} および V_{TL} スレッショルドが生成されます。これを使用して、起動時の共振タンク突入電流を最小化します。

以下の波形では、内部 VCR 信号とコンパレータ閾値電圧 V_{TH} および V_{TL} に基づいて、ハイサイドおよびローサイドのスイッチが制御されます。VCR が V_{TH} を上回ると、ハイサイド スイッチがオフになり、VCR が V_{TL} を下回ると、ローサイド スイッチがオフになります。

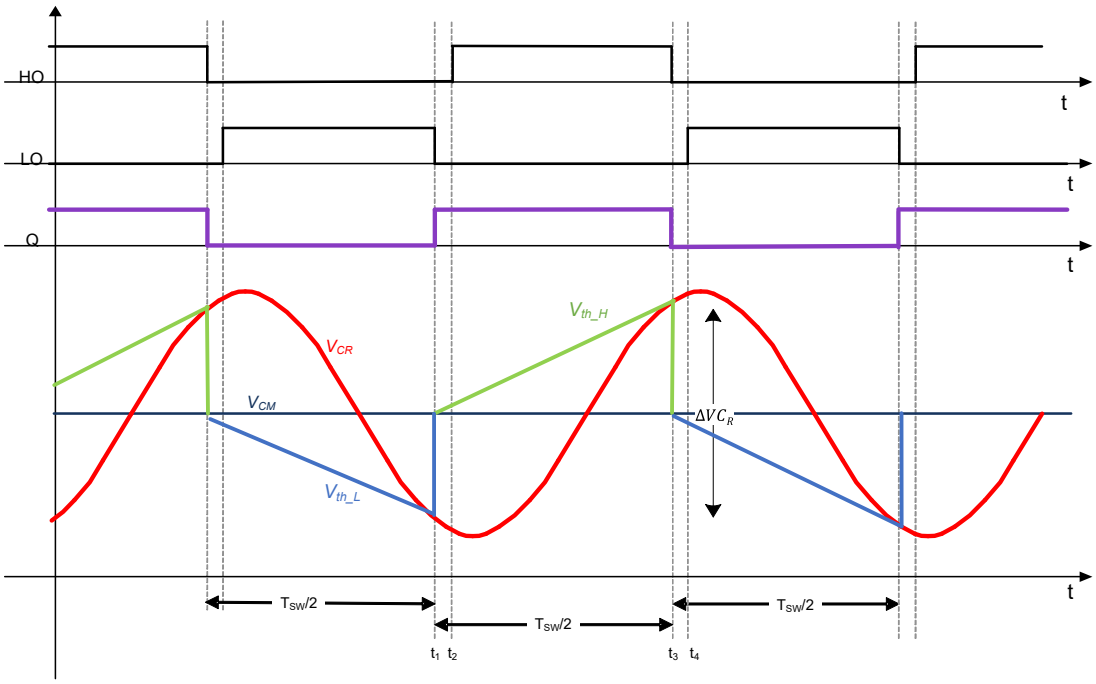


図 7-2. IPPC の基本波形

ADVANCE INFORMATION

コンパレータのスレッショルド V_{TH} および V_{TL} は、以下の式で計算できます。

$$V_{TH} = (V_{CM} + k{*}FBReplica{*}Tsw/2) \quad (1)$$

$$V_{TL} = (V_{CM} - k{*}FBReplica{*}Tsw/2) \quad (2)$$

$$V_{TH} - V_{TL} = \Delta V_{CR} = k{*}FBReplica{*}Tsw \quad (3)$$

7.3.1.1 電圧フィードフォワード

入力電圧フィードフォワードを実装することで、制御信号は入力電力 P_{inavg} に比例します。

入力電圧フィードフォワードが適用されている状態で式 4 を書き換えます。

$$FBReplica = \frac{2}{C_r}{*}K_1{*}\,Pin_{avg} + K_2{*}I_{\mathrm{RAMP}} \quad (4)$$

ここで、K_1 と K_2 は内部シンセサイザのゲインです。

LLC 電力段への入力電圧は、BLK ピンで定期的に検知されます。その後、この電圧に対して周期的な平均値を使用してフィード フォワード ゲインを調整し、制御信号が入力電力に比例するようにします。詳細については、VCR シンセサイザを参照してください。

7.3.2 VCR シンセサイザ

UCC25661x-Q1 ファミリ には VCR シンセサイザが実装されており、共振タンク電流が内蔵されているため、共振容量電圧の内部表現が形成されます。VCR シンセサイザを内部に実装することで UCC25661x-Q1 ファミリ 突入電流の制御とフィードフォワード ゲイン段により、超高周波のスタートアップをサポートします。内蔵の VCR シンセサイザにより、コントローラが ISNS 端子で拾った外部ノイズの影響を受けにくくなるため、コントローラはより堅牢になります。

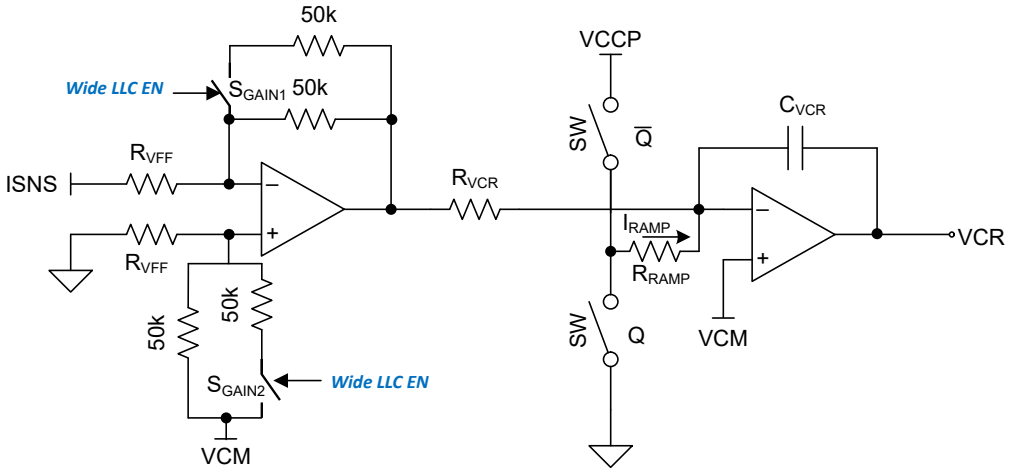


図 7-3. VCR シンセサイザのブロック図

VCR シンセサイザの最初の段はプログラム可能なゲイン段で構成されており、入力電圧のフィード フォワード機能を実装するために使用されます。2 段目は、ランプ補償付きのプログラム可能な積分器で構成されます。

UCC256614 は拡張ゲイン範囲 (EGR) に対応しています。EGR 機能は、広い範囲 (3:1) で LLC の入力電圧が変化したときの FBReplica の変動を低減するのに役立ちます。これは、スイッチ S_{GAIN1} および S_{GAIN2} をオンに工場出荷時にプログラミングすることにより、VCR シンセサイザのプログラム可能なゲイン段のゲインを低減することで実現されます。

広い周波数範囲の LLC 電力段に対応できるよう、TSET ピンを使用した設計の要求を満たすため、積分器の時定数はスタートアップ時に外部で設定可能です。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

起動時は、V5P と GNDP の間に接続された外付け分圧抵抗によって、TSET のプログラミングが行われます。外部分圧器のセンターノードを TSET ピンに接続します。プログラミング フェーズ中に、定電流 $I_{TSETPrgm}$ が TSET ピンに供給され、その結果として得られる電圧は ADC(V_{TSETA}) によって測定されます。$I_{TSETPrgm}$ がオフになってから、TSET 分圧抵抗の電圧 (V_{TSETB}) が測定されます。

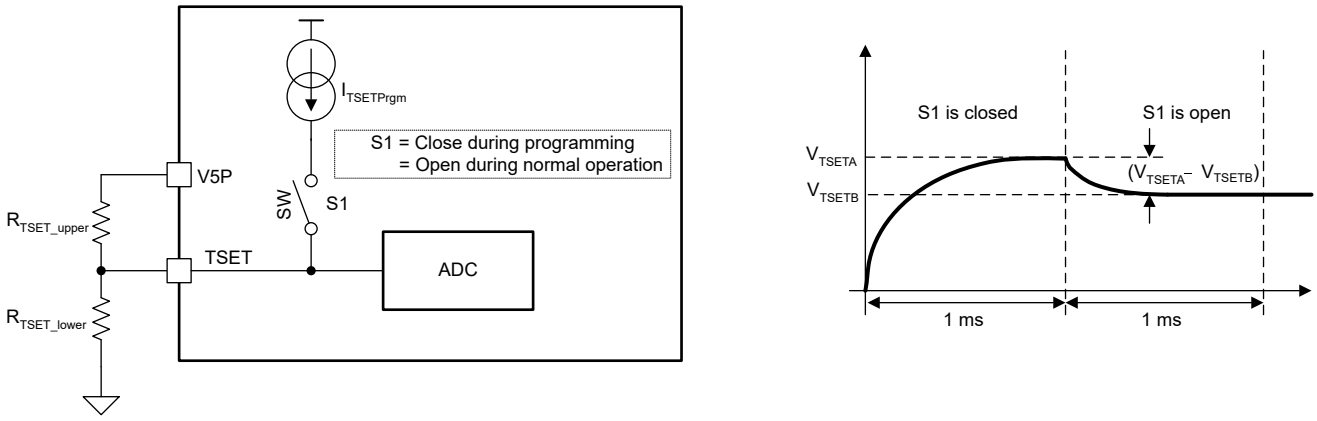


図 7-4. TSET ピンのプログラミング

7.3.2.1 TSET のプログラミング

V_{TSETB} 電圧は、IPPC 動作の最小周波数とデッド タイムを設定します。V_{TSETA}–V_{TSETB} は、特定の電力出力に対して FBReplica の大きさを設定するのに役立つ積分器の時定数を設定します。これは、OLP と OCP を独立して設定するのに役立ちます。

表で、TSET 電圧の値は公称値です。各 TSET 設定で使用可能な最大および最小範囲は、公称値から ±48mV 以内です。

表 7-1. TSET プログラミング オプション表

TSET オプション番号	TSET 電圧 (V) 3.5V OCP の場合	IPPC 動作の最小周波数 (kHz)	積分器の時定数 (ns)	最大デッドタイム タイマ (µs)
17	2.295	698.6	68	0.5
16	2.168	591.6	80	0.5
15	2.041	501	93	0.5
14	1.914	424.3	112	0.5
13	1.787	359.3	132	1
12	1.66	304.3	156	1
11	1.533	256.7	184	1
10	1.416	218.2	214	1
9	1.299	184.8	257	1
8	1.182	156.5	304	1
7	1.074	132.5	359	1
6	0.967	112.2	424	1
5	0.850	95	490	1
4	0.742	80.5	588	1
3	0.644	68.1	694	1
2	0.547	57.7	820	1

ADVANCE INFORMATION

表 7-1. TSET プログラミング オプション表 (続き)

TSET オプション番号	TSET 電圧 (V) 3.5V OCP の場合	IPPC 動作の最小周波数 (kHz)	積分器の時定数 (ns)	最大デッドタイム タイマ (µs)
1	0.450	48.9	968	1
X* (1)	<0.392	—	X	—

(1) *使用をお勧めしません。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.3.3 帰還チェーン (制御入力)

出力電圧の制御は、絶縁膜の 2 次側にある電圧レギュレータ回路により提供されます。2 次側レギュレータ回路からの要求信号は、フォトカプラを使用して絶縁バリアを通過します。

定電流源 I_{FB} が、VCCP 電圧から生成され、FB ピンに接続されます。また PMOS を直列にして、抵抗 RFB もこの電流源に接続されます。通常動作中は、FB ピンの電圧がツェナー ダイオード基準電圧に PMOS のソース- ゲート間電圧降下を加えた値と等しくなるように、PMOS は常時オンになります。

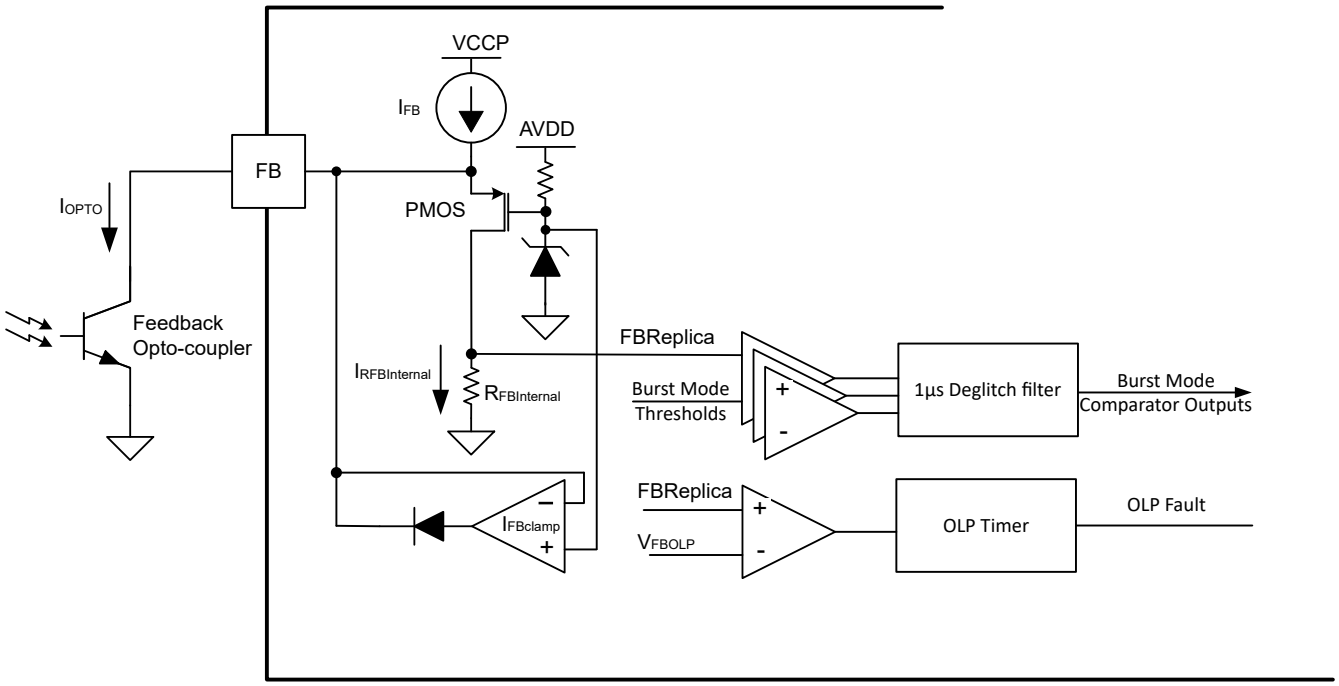


図 7-5. 帰還信号経路 ブロック図

$$I_{R_{FBInternal}} = I_{FB} - I_{OPTO} \quad (5)$$

ADVANCE INFORMATION

制御信号 *FBReplica* は、次の式を使用して表します。

$$FBReplica = I_{R_{FBInternal}} \cdot R_{FBInternal} \tag{6}$$

この式から、ioptp、I_{OPTO} が増加すると、$I_{RFBInternal}$ が減少し、*FBReplica* が減少します。このように制御信号が反転します。I_{OPTO} が増加し続け、I_{FB} の値に達すると、PMOS を流れる電流が十分にないため、FB ピンの電圧は低下し始めます。FB ピンが low になると、フォトカプラの寄生コンデンサを充電して FB ピンの電圧をプルアップすることに起因する余分な遅延が発生し、システムの過渡応答に影響を及ぼします。FB ピンの電圧クランプ回路を使用して、この状況を防止します。FB ピンの電圧が FB ピンのクランプ電圧スレッショルドを下回ると、追加の電流源がオンになり、FB の電圧をクランプします。クランプの強度は $I_{FBClamp}$ です。FB ピン クランプ回路により、軽負荷から重負荷までのシステム過渡性能が向上します。FB ピンのクランプ動作を下図に示します。

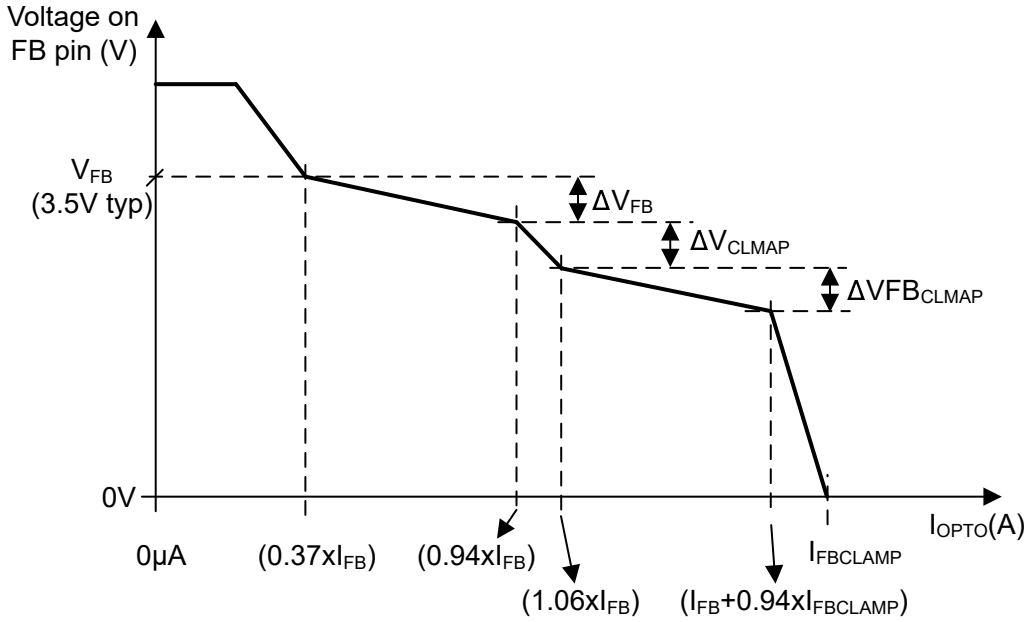


図 7-6. FB ピン電圧と FB ピンのシンク電流との関係

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.3.4 アダプティブ デッドタイム

UCC25661x-Q1 ファミリ には、ハイサイド パルスとローサイド パルス間のデッド タイムを最適化するため、高速な低レイテンシ スルーレート検出ブロックが実装されています。アダプティブ デッド タイム ブロックは、貫通電流または過剰なボディ ダイオード導通を防止するためにデッド タイムを調整します。

アダプティブ デッド タイム ブロックのコアには、最大 200V/ns のスルーレートを検出できるスルー レート検出器ブロックがあり、UCC25661x-Q1 ファミリ は高周波共振コンバータでの使用に最適です。

バースト モードでは、ZCS 防止動作中、またはスルー レートが非常に低速になる可能性のある電力段で、共振タンクの電流極性信号 (極性コンパレータ出力) を使用してスルー レート検出器を強化します。

LLC の自然な対称動作を利用することで、スルー レート検出器によって決定されるのは、ハイサイド スイッチのオフとローサイド スイッチのオン間のデッド タイムのみです。このデッド タイムはコピーされ、ローサイド MOSFET のターン オフとハイサイド MOSFET のターン オン間のデッド タイムに適用されます。デッド タイムがコピーされないいくつかの例外があります。条件は以下のとおりです。

- 直前の High から Low への遷移でスルーレート検出器信号が見つかりません。
- 前のサイクルでの ZCS 検出。

上記の条件では、ISNS 信号に基づく Ipolarity コンパレータを使用して、low から high への遷移中のデッド タイムを調整します。

7.3.5 入力電圧センシング

BLK ピンによる入力電圧検出を使用して、以下に示す複数の機能を実装します。

- 入力電圧ブラウンインおよびブラウン出力
- 入力フィード フォワード (「入力電力比例制御」で説明)
- 入力電圧 OVP。

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

7.3.5.1 ブラウンインとブラウンアウトのスレッショルドおよびオプション

UCC25661x-Q1 ファミリ には、プログラマブルなブラウンインおよびブラウンアウト スレッショルドがあります。BLK ピンの電圧が $V_{BLKStop}$ を下回ると、コントローラはブラウンアウト状態に移行し、スイッチングを停止します。ブラウンアウト状態では、追加の電流シンクがオンになり、BLK ピンから I_{BLKHys} を引きます。このピンに接続される等価抵抗を外部で変更することで、実際のブラウンイン電圧をプログラミングできます。

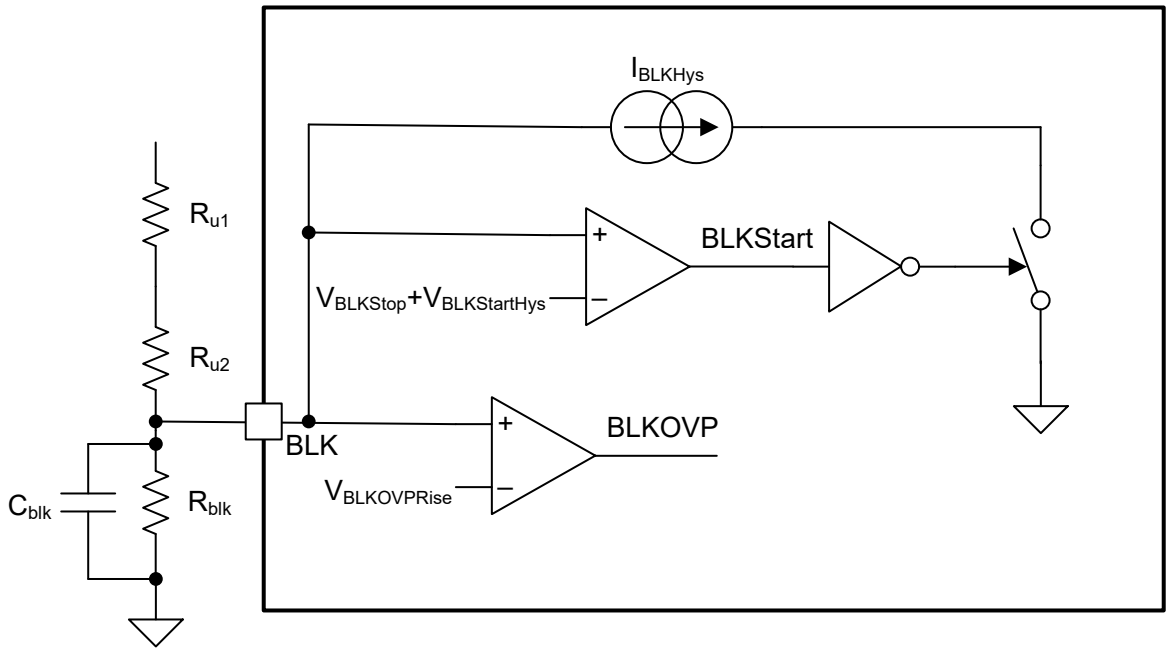


図 7-7. BLK ピンの入力電圧検出アーキテクチャ

ブラウンアウトが検出されると、コントローラはスイッチングを停止します。BLK 電圧がブラウンイン電圧を上回ると、コントローラはすぐにソフトスタートを開始し、フォルトのアイドル時間を待ちません。

BLK OVP オプションが有効なバリアントでは、BLK ピンの電圧が OVP スレッショルドを上回ると、コントローラはスイッチングを停止し、フォルト状態に移行します。フォルト アイドル時間の後に、コントローラは OVP 状態が解消されるかどうかを確認します。OVP 状態が解消されると、コントローラは回復およびソフト スタートを開始します。OVP 状態がクリアされない場合、コントローラはオフのままで、OVP 状態が解消されるまで待機します。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.3.5.2 出力 OVP および外部 OTP

UCC25661x-Q1 ファミリ はマルチファンクション ピン (OVP/OTP) を備えており、出力過電圧と外部過熱状態を監視します。出力電圧はバイアス巻線および電源電圧 VCCP に反映される電圧によって監視されます。

VCCP と OVP/OTP ピンの間にツェナー ダイオードを接続します。通常の動作条件では、ツェナーは導通せず、OVP/OTP ピンの電圧は NTC 抵抗と I_{OTP} のソース電流の結果となります。VCCP がツェナー ブレークダウン電圧を超えるのに十分な大きさになった場合、ツェナー電流により OVP/OTP ピンの電圧が high になります。OVP/OTP の電圧が VOVP の $_{pos}$ スレッショルドを 40us 上回ると、コントローラは障害を検出し、スイッチングを停止します。

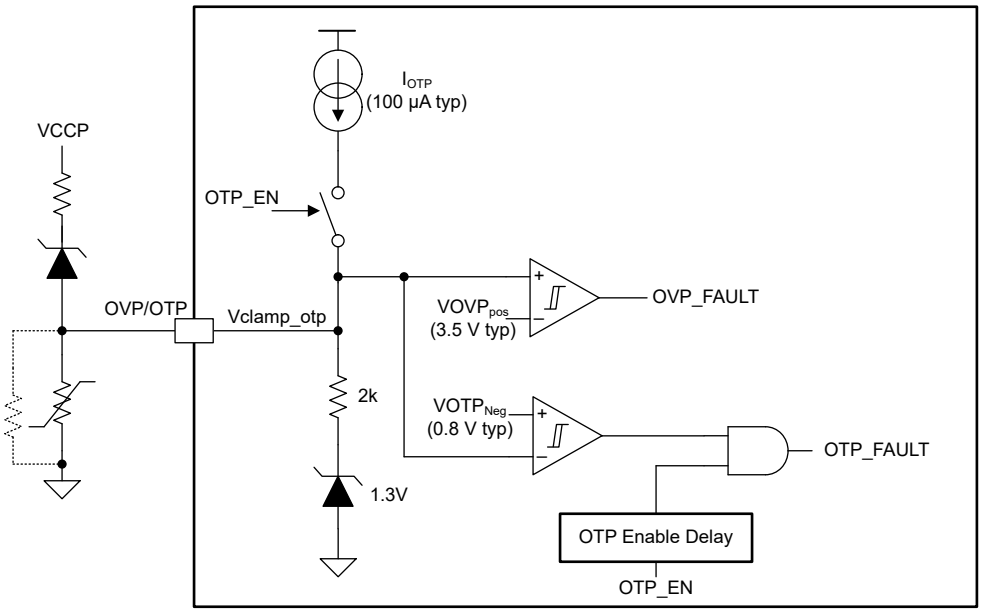


図 7-8. OVP/OTP 保護アーキテクチャ

NTC は OVP/OTP から GNDP に接続します。内部の電流源 I_{OTP} は、OVP/OTP ピンから流れ出し、NTC 抵抗に流れます。NTC の温度に基づいて、外部過熱フォルトが発生したかどうかを判断するために、ピンの結果として得られた電圧が $VOTP_{Neg}$ と比較されます。外部過熱保護が検出されると、UCC25661x-Q1 ファミリ は障害状態に移行します。1 秒の待機時間後に、UCC25661x-Q1 ファミリ は OVP/OTP ピンの電圧を確認します。OVP/OTP ピンの電圧が $VOVP_{Pos}$ よりも高い場合、UCC25661x-Q1 ファミリ は再起動を試みます。それ以外の場合は、フォルト アイドル状態で待機し続けます。バースト モード中は、静止電流を最小化するため、過熱保護機能が無効化されます。バースト モードから通常スイッチングに遷移するとき、OTP 機能が再度イネーブルされます。

ADVANCE INFORMATION

7.3.6 共振タンク電流検出

ISNS ピンは微分器により共振タンク電流を検知します。過電流保護ピンとしてだけでなく、ISNS 端子も制御機能の重要な部分です。

ISNS 端子の機能は次のとおりです。

1. 制御電圧を発生させ、IPPC 制御に使用する積分器への入力。
2. OCP (サイクル単位) 保護。
3. 共振電流極性検出。
4. ZCS (ゼロ電流スイッチング) 防止とデッドタイム管理。
5. 起動時の逆回復回避。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.4 保護機能

7.4.1 ゼロ電流スイッチング (ZCS) 保護

ZCS 保護は、LLC コンバータが容量性動作領域に上回らないようにするために必要な機能です。容量性領域では、MOSFET に深刻な逆回復が発生し、LLC 電力段が損傷する可能性があります。さらに、ゲインと周波数の関係は容量性領域で反転し、コンバータが電力段のレギュレーションを完全に失う可能性があります。

ZCS 保護の目標は、電流が反転する前に MOSFET を確実にオフにできるようにすることで、MOSFET のボディ ダイオードがハード逆回復する可能性をなくすことです。これにより、出力段の信頼性が向上します。最小ターンオフ電流はスレッショルドに設定されます。これにより、この状況でのスイッチに対する ZVS または ZVS スイッチングの可能性が高くなります。

デッド タイム エンジンを組み合わせると、スルー完了信号と IPOL 信号の両方を考慮しているため、Vds 電圧のバレーポイントで逆方向の MOSFET が確実にオンになり、ターンオン損失を低減できます。

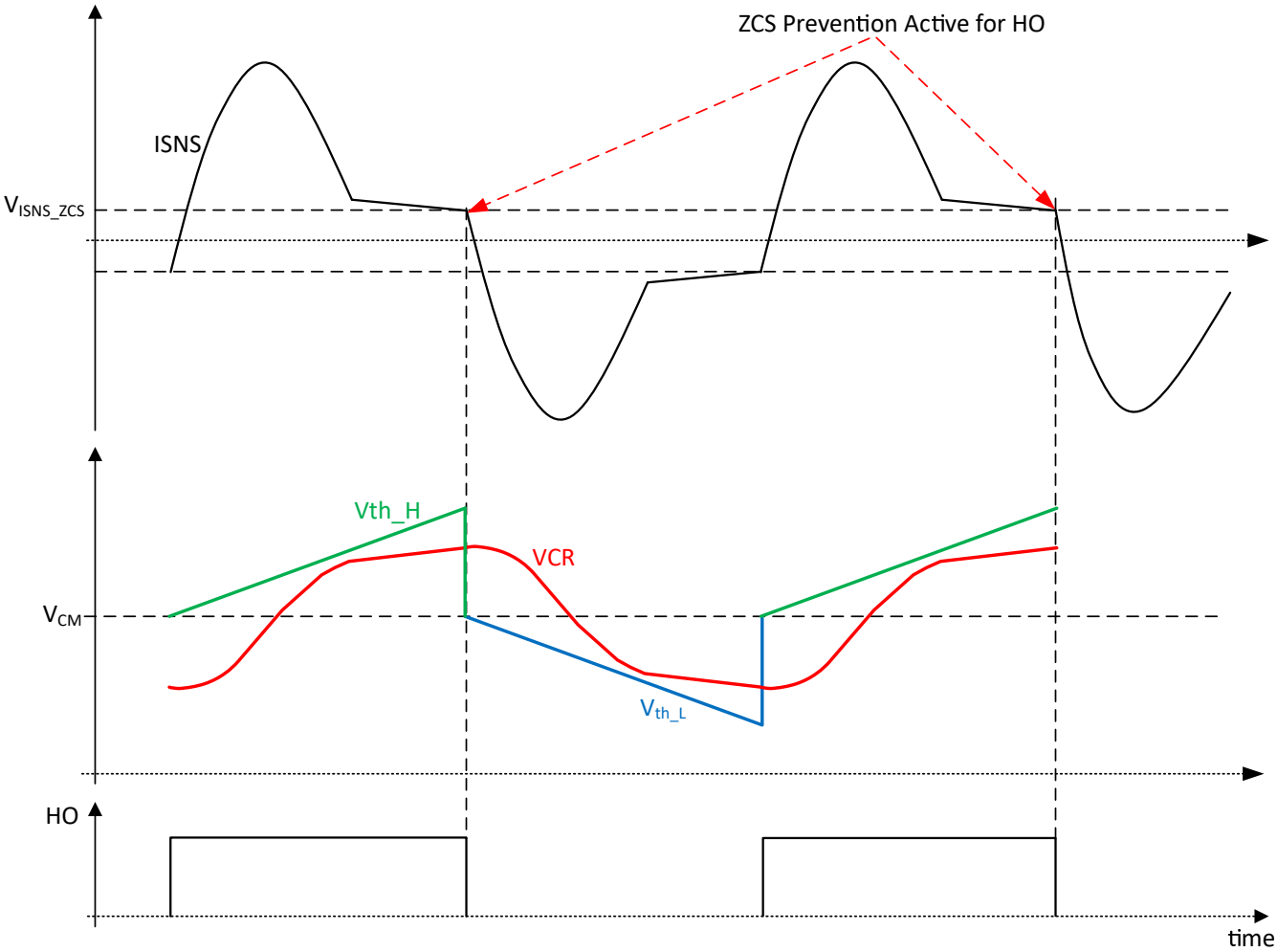


図 7-9. ZCS 保護

誘導性/容量性の境界で動作が成立しない場合は、ゲートがオフになる前に共振電流が減少します。ISNS 波形が V_{ISNS_ZCS} スレッショルドよりも低い場合、VCR 波形が VTH 境界を超えるのを待たず、ゲート パルス HO は早期終了します。この早期のゲート終端方法では、ゲート ターンオフ エッジで十分な共振電流を残して、デッド タイム中に ZVS 遷移を駆動できます。LO ゲート パルスについても同様の説明が有効です。

ADVANCE INFORMATION

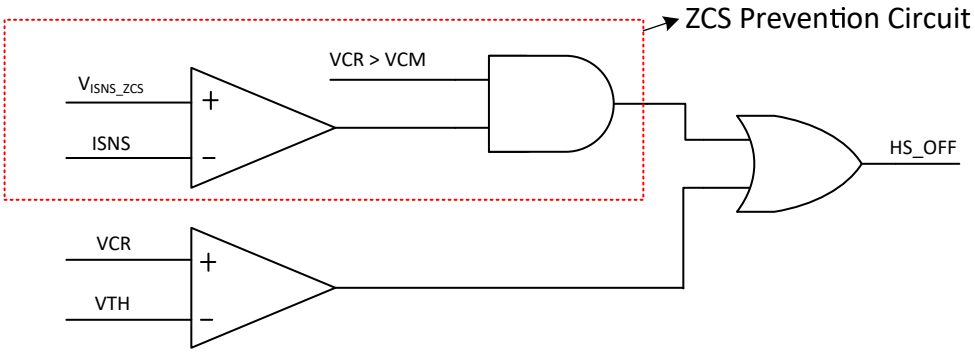


図 7-10. ハイサイド MOSFET がオンのときの ZCS 防止方式

共振周波数よりも共振電流の形状が十分低い場合、共振電流波形の正しい立ち下がりエッジを検出するにはいくつかの課題が生じます。UCC25661x-Q1 には、ISNS 信号の正しい立ち下がりエッジを確実に検出して、誤トリップを防止するため、追加のロジックが実装されています。

ノイズに対する堅牢性を高めるため、HO または LO ゲートの立ち上がりエッジで ISNS ZCS コンパレータがブランキングされます。VCR コンパレータと ISNS ZCS コンパレータの両方で、同じブランキング時間 t_{leb} が使用されます。

ZCS イベントが検出されると、内部ソフト スタート ランプ電圧がゆっくりと低下します。内部ソフト スタートが下降すると、スイッチング周波数も強制的に上昇し、コンバータの容量性領域から強制的に逸脱します。

$TZCS_{Fault}$ が一定時間持続した ZCS 条件が発生した場合 (工場出荷時に構成可能)、UCC25661x-Q1 コントローラはスイッチングを停止し、フォルト状態に移行します。

7.4.2 ソフト スタート中の最小電流ターンオフ

起動時に、1 次側の最初の MOSFET 数スイッチング サイクルでは、ボディ ダイオードの逆回復とハード スイッチングが行われることがあります。これは主に、起動時に、Vin/2 の定常状態動作電圧から共振コンデンサが DC バイアス電圧を生じる可能性があることによるものです。これにより、起動時の共振タンク電流が非対称になります。最初の数サイクルでは、この非対称性が十分に高く、スイッチ ターンオフの時点の電流が逆極性になることがあります。

例えば、以下の図を参照してください。

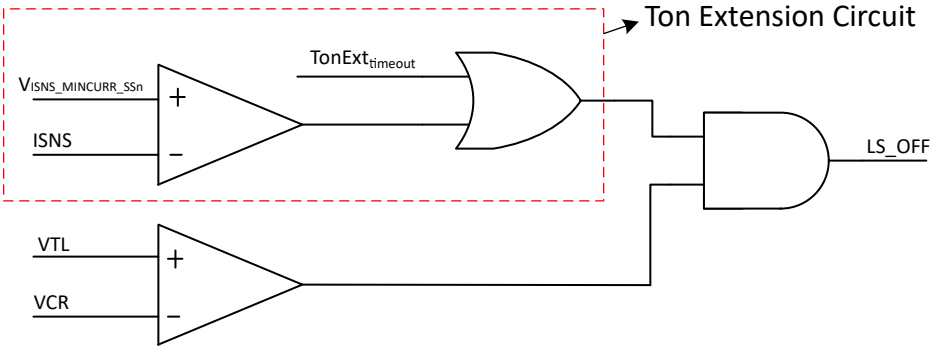


図 7-11. Ton 拡張方式

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

ADVANCE INFORMATION

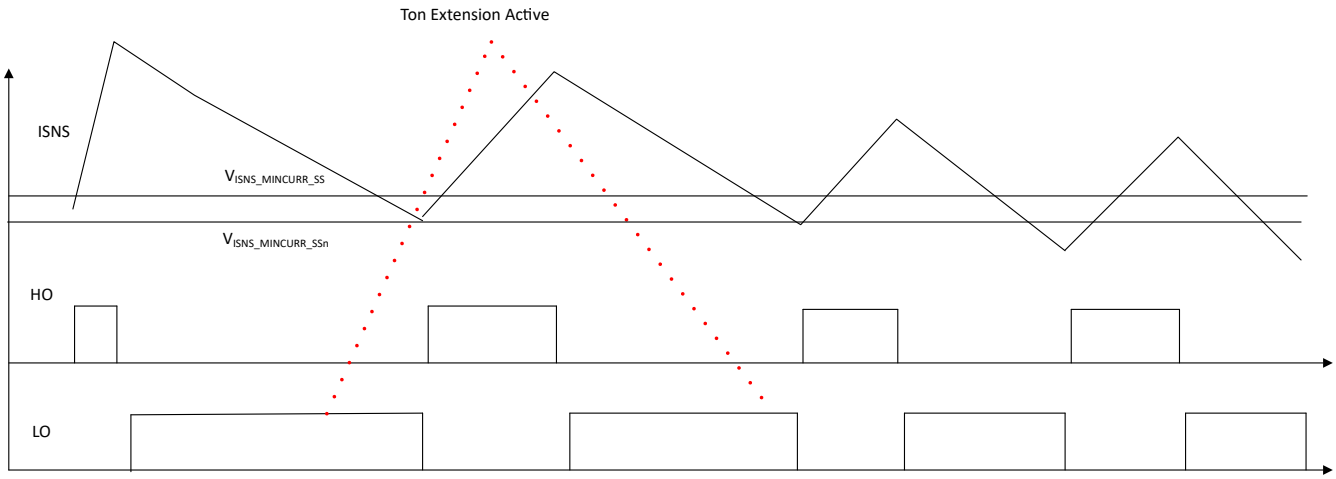


図 7-12. 起動時の ZCS 防止

7.4.3 サイクル単位の電流制限と短絡保護

UCC25661x-Q1 ファミリの OCP およびサイクル単位の電流制限機能は、短絡に対して高速 (50ns 未満) 応答を実現しています。

サイクル単位の保護機能は、電力段のピーク ストレスを制限するのに役立ちます。ISNS 電圧が V_{ISNS_OCP} を上回ると、現在の HO ゲート パルスは終了します。それに応じて、後半サイクルで、対応する過電流制限が検出されると、現在の LO パルスが終了します。スイッチング サイクル連続で n_{OCP} (7) の状態で OCP が検出されると、デバイスはフォルト状態に移行します。スタートアップ中、連続スイッチング サイクルの n_{OCP_SS} (50) で OCP 状態が検出されると、デバイスは障害状態に移行します。n_{OCP} と n_{OCP_SS} は出荷時に構成可能なパラメータです。

7.4.4 過負荷 (OLP) 保護

フィード フォワードで IPPC を使用すると、Pout と内部制御信号 FBReplica の間に密接な相関関係を得ることができます。

FBReplica が V_{FBOLP} を上回ると (すなわち、I_{opto} が 0μA に低下) 、システムは入力電力の制限を開始し、OLP タイマ カウントが増加します。FBReplica が (T_{OLP}) を上回る間 V_{FBOLP} を上回ると、OLP フォルトが検出され、システムはフォルト再起動シーケンスに移行します。

7.4.5 VCC OVP 保護

VCCP ピンの内部電流制限クランプにより、VCCP ピンを保護し、VCCP ピンに印加される電圧が推奨最大電圧を超えると、ゲート駆動出力電圧をクランプします。クランプには最大シンク電流 $IVCC_{Clamp}$ があります。VCC_{Shunt} を流れる電流が $IVCC_{Clamp}$ を超えると、VCCP ピンの電圧が VCC_OV を超えてさらに上昇することになります。この場合、UCC25661x-Q1 はフォルト状態に移行し、1 秒のフォルト アイドル時間後に再試行します。

ADVANCE INFORMATION

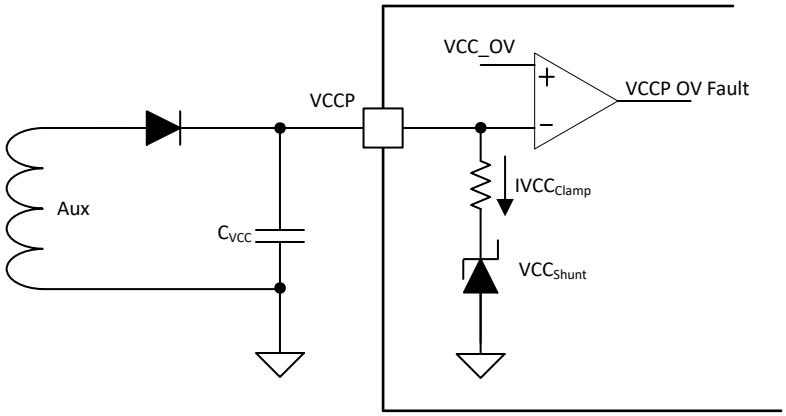


図 7-13. VCC クランプ

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.5 デバイスの機能モード

7.5.1 スタートアップ

7.5.1.1 HV スタートアップ時

初回起動シーケンス

1. AC プラグを差し込むと、HV ピンに電圧が印加されます。VCCP 電圧が VCC_{Short} を下回ると、VCCP ピンは $I_{VCC_Charge_Low}$ で充電されます。VCCP 電圧が VCC_{Short} より高い場合は、VCCP ピンが $I_{VCC_Charge_High}$ で充電されます。
2. VCCP 電圧が VCC_{UVLOr} を上回ると、デバイスの初期化が完了するまで、内部 LDO が V5P 電圧をレギュレートします。
3. V5P が確立されます。LL ピンと TSET ピンは、バースト モードと内部 VCR シンセサイザのプログラミングに使用します。
4. HV スタートアップオプションがイネーブルの場合、VCCP が完全に確立される前に PFC がオンになるのを防ぐため、TSET ピンは high (PFC オフを意味します) を出力します。
5. VCCP が $VCC_{StartSelf}$ を上回ると、HV 充電電流は停止します。LLC の起動プロセスが開始します。TSET 電圧は 1V 未満に維持され、PFC が起動することができます。
6. ステージ 3 と 4 の間に、VCCP 電圧が $VCC_{ReStartJfet}$ を下回ると、HV 充電電流が再度イネーブルになり、VCCP は $I_{VCC_Charge_High}$ で充電されます
7. LLC の起動が完了すると、VCCP が $VCC_{ReStartJfet}$ を下回るまでの間、HV 充電電流はディセーブルになります。
8. 通常動作中に、VCCP 電圧が $VCC_{StopSwitching}$ を下回ると、異常が発生し、UCC25661x-Q1 ファミリ はシャット ダウンします。その後、通常の再起動シーケンスが実行されます。

シーケンスを再起動します

1. 異常が検出されると、UCC25661x-Q1 ファミリ はシャット ダウンします。フォルト リトライ モードの場合、1 秒間のアイドル時間の後、UCC25661x-Q1 ファミリ は再試行します (VCCP が VCC_{UVLOf} を上回っているとき、TSET 出力は high)。
2. VCCP 電圧が VCC_{Short} を下回ると、VCCP ピンは $I_{VCC_Charge_Low}$ で充電されます。VCCP 電圧が VCC_{Short} より高い場合は、VCCP ピンが $I_{VCC_Charge_High}$ で充電されます。VCCP ピンの電圧が $VCC_{StartSelf}$ より高い場合、HV 起動はイネーブルではありません (位相 I がスキップされます)。V5P が確立され、バースト モード設定用に LL ピンが解放されます。

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

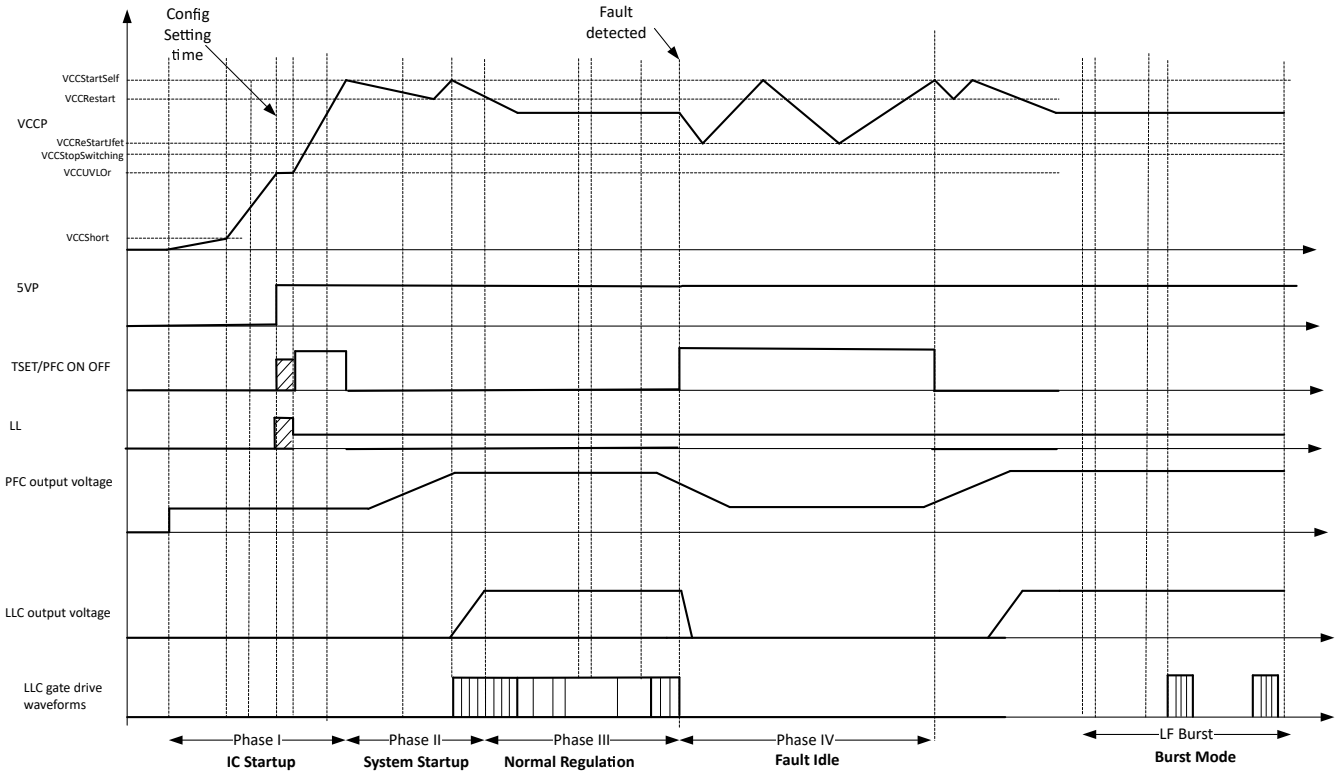


図 7-14. 「HV スタートアップ」機能の起動シーケンスを有効化

7.5.1.2 HV スタートアップなし

HV スタートアップが無効になると、PFC オン/オフ信号もディセーブルされます。したがって、HV スタートアップがディスエーブルの場合、スタートアップ時の PFC オン/オフ シーケンスは無効になります。スタートアップ シーケンスは、次のとおりです。

1. VCCP 電圧が VCC_{UVLOr} を上回ると、V5P が確立されます
2. LL ピンと TSET ピンは、バースト モードおよび内部 VCR 積分器の設定に使用されます。
3. VCC が VCC_{UVLOf} を下回ると、V5P はオフになり、システムはシャット ダウンされます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

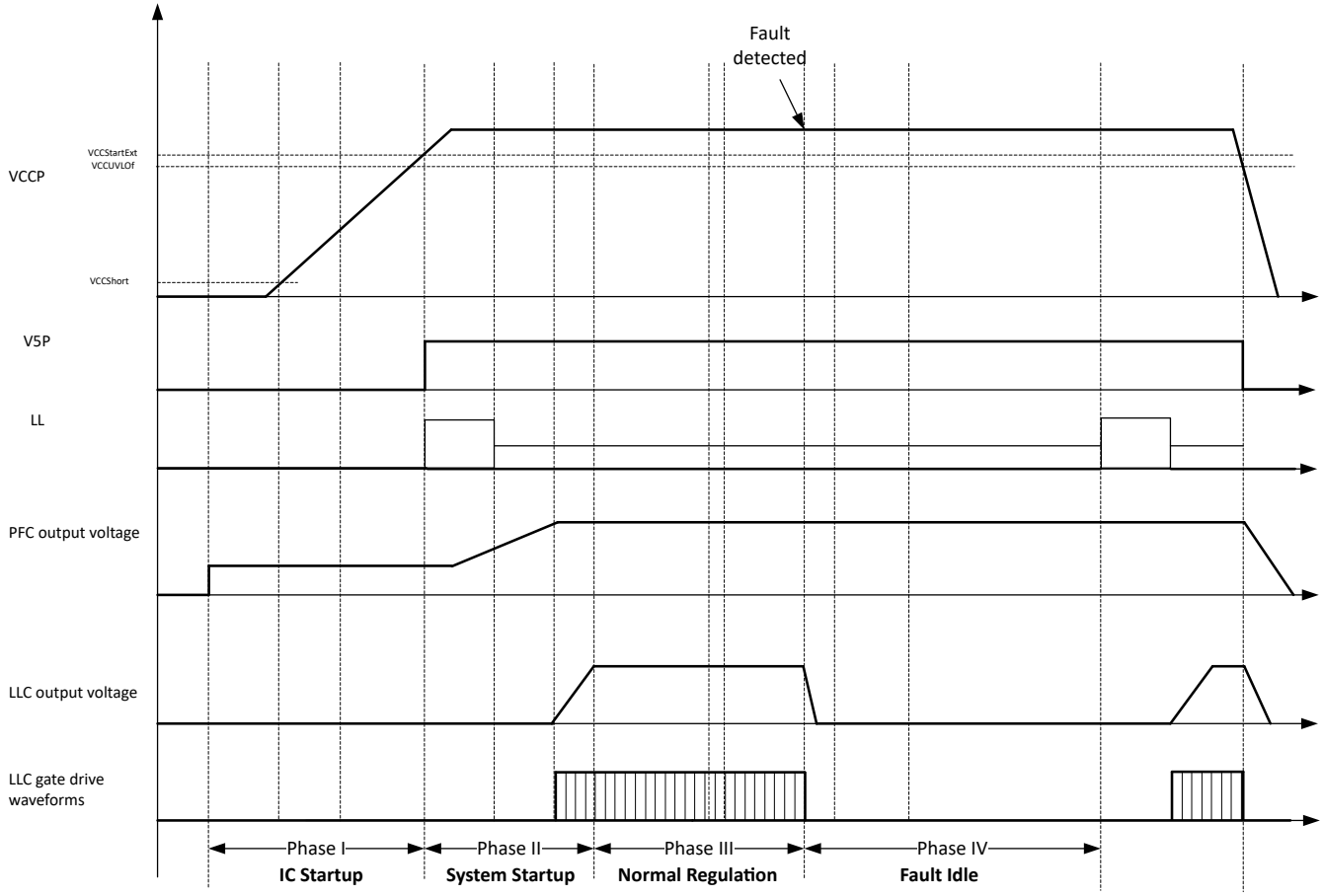


図 7-15. 「HV スタートアップ」機能の起動シーケンスを無効にしました

ADVANCE INFORMATION

7.5.2 ソフト スタート ランプ

ソフト スタート ランプは、UCC25661x-Q1 ファミリ に内蔵されています。内部で 25ms の固定最大ソフト スタート時間が生成されるため、出力電圧の高速上昇を可能にしながら、スタートアップ時の突入電流を低減できます。

7.5.2.1 スタートアップからレギュレーションへの遷移

UCC25661x-Q1 ファミリ には、新しいソフト スタートが実装されているため、スタートアップ時の突入電流を制御できます。この新しい方式により、早期のソフト スタートの終了を回避でき、ソフト スタートと閉ループ レギュレーションとの間をスムーズに遷移できます。

スタートアップ時に、定義されたスロープを使用して内部ソフト スタート電圧 (*SSRamp*) が上昇し、*FBReplica* は出力電圧がレギュレーション電圧を下回っていることから high になります。これら 2 つの信号のうち低いほうが、電力段のスイッチのターンオフ制御を決定します。

ソフト スタートは、*SSRamp* が最小スレッショルドを上回った後にのみ終了し、早期のソフトスタート終了を回避します。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.5.3 軽負荷効率の管理

7.5.3.1 動作モード (バーストパターン)

UCC25661x-Q1 ファミリ バースト モード アルゴリズムは、可聴ノイズを最小限に抑えながら、軽負荷時の効率を向上させます。これは、バーストパケットの周波数を可聴範囲を上回る (25kHz 超) ように維持するか、またはバースト パケットの周波数を可聴領域の非常に低い端 (400 Hz 未満) に維持することで実現されます。UCC25661x-Q1 ファミリ は 2 つのバースト モード パターン、高周波 (HF) パルス スキップ、低周波数 (LF) バーストを採用しています。

HF バースト パケットには、固定数の LO および HO パルスが含まれます。HF バーストの目的は、バースト周波数を可聴周波数範囲よりも高く維持することです。下の図では、スイッチ ノードの 2 番目のバレーでローサイド ゲートがイネーブルになり、次の HF バースト パケットの配信を開始します。

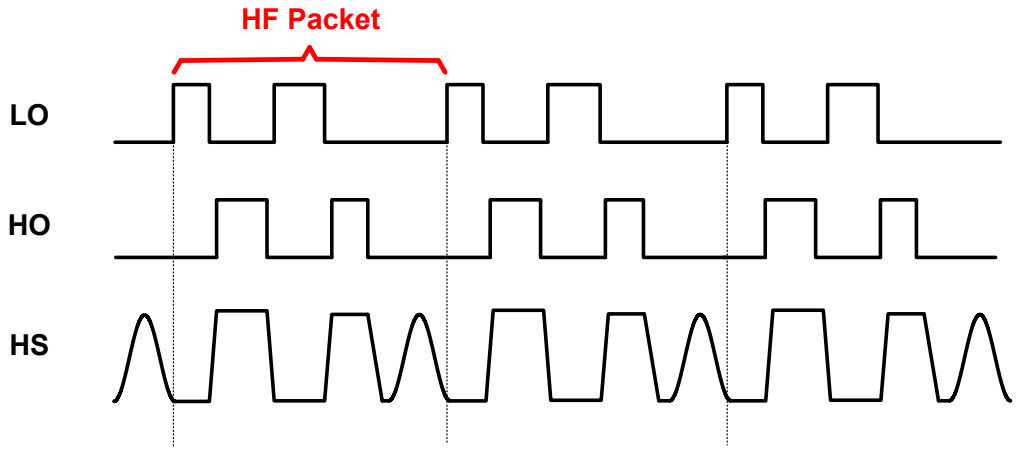


図 7-16. 高周波数パルス スキップ パケット

LF バーストには、多数の HF バースト パケットと LF バースト オフ期間が含まれます。

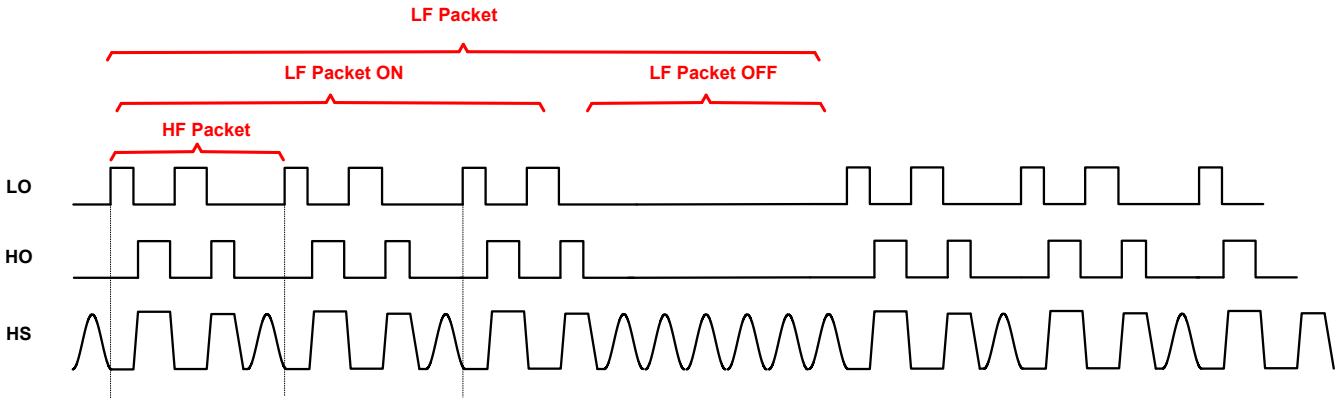


図 7-17. 低周波数のバースト パケット

ADVANCE INFORMATION

LF バースト周波数を周波数範囲内に維持するために、HF バースト パケットの数が計算されます。目標周波数範囲のセットを内部的に用意し、デフォルト オプションは、200Hz 付近で LF バーストを制御することです。

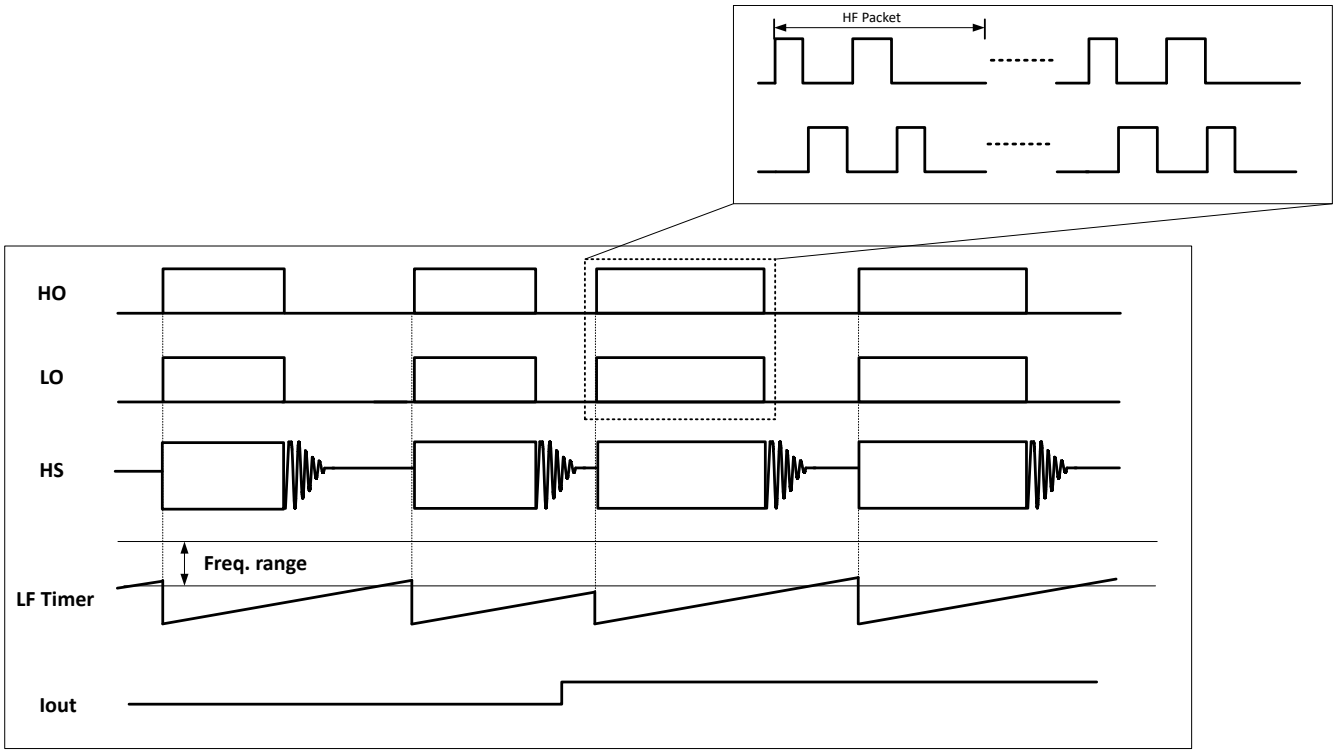


図 7-18. LF バースト内のパケット サイズ レギュレーション

7.5.3.2 バースト モード スレッショルド プログラミング

バースト モード スラッシュは、V5P と GNDP の間に接続された外付け抵抗分圧器によって行われます。外部分圧器のセンターノードを LL ピンに接続します。プログラミング フェーズ中に、定電流 I_{LLPrgm} が LL ピンに供給され、その結果得られる電圧は、T_{LLPrgm} の時点で ADC (V_{LLA}) を介して測定されます。T_{Prgm} の後、I_{LLPrgm} がオフになり、LL 分圧抵抗の電圧 (V_{LLB}) が測定されます。

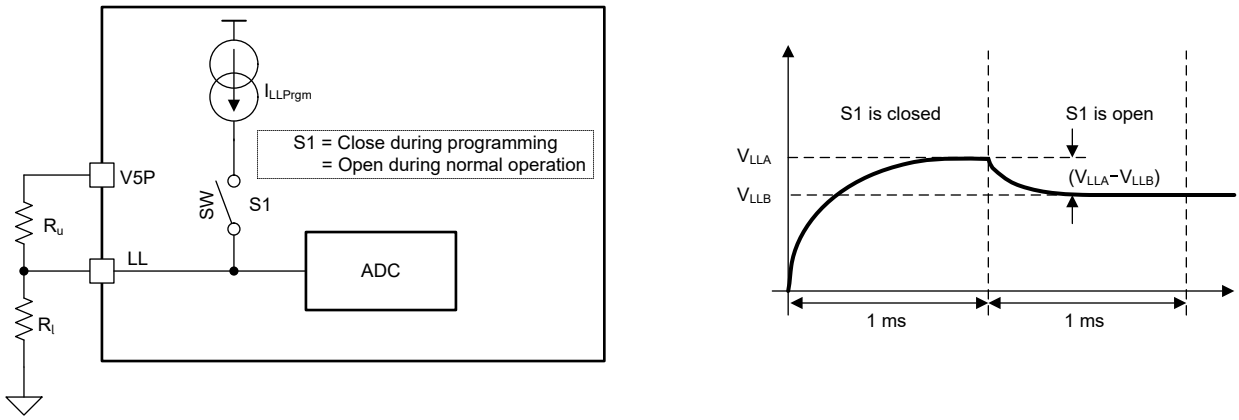


図 7-19. LL ピンのプログラミング

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

ADVANCE INFORMATION

スイッチ S1 がオフになった後の LL ピンの電圧 (V_{LLB}) は、システムが LF バースト セグメントを停止する入力電力を設定するために直接使用されます (*PacketStop* = V_{LLB}) 。

測定された V_{LLB} 電圧と、V_{LLA} と V_{LLB} の電圧差に基づいて、コントローラが HF バーストに入る *FBReplica* の電圧を判定できます。

V_{LLA} - V_{LLB} の計算式を次に示します。

$$V_{LLA} - V_{LLB} = (R_u||R_l) \times I_{LLprgm} \quad (7)$$

$$HFBurstEntry = PacketStop/a \quad (8)$$

定数「A」は、次の表に示すようにユーザーがプログラムできます。

$R_u||R_l$ = Rth

コントローラが LF バーストセグメントを開始する *FBReplica* を次に示します。

$$LFBurstEntry = PacketStop/0.6 \quad (9)$$

HFBurstexit および *LFBurstexit* スレッショルドには、それぞれ *HFBurstentry* および *LFBurstentry* からのヒステリシスがあります。2 つのヒステリシスはユーザー定義のパラメータではありません。これら 2 つのヒステリシスは、コンバータの動作ポイントに基づいて内部で動的に推定されます。

バースト モード機能は、(V_{LLA} - V_{LLB}) を適切にプログラムすることでディセーブルできます。

表 7-2. バースト モードを外部でプログラム可能な設定

(VLLA- VLLB) (V)	a = (PacketStop ÷ HFBurstEntry) 比率	コメント
>2.41	該当なし	バースト無効化
2.185	0.45	LF 周波数範囲:200Hz ～ 400Hz
1.754	0.50	LF 周波数範囲:200Hz ～ 400Hz
1.391	0.55	LF 周波数範囲:200Hz ～ 400Hz
1.087	0.60	LF 周波数範囲:200Hz ～ 400Hz
0.833	0.65	LF 周波数範囲:200Hz ～ 400Hz
0.617	0.70	LF 周波数範囲:200Hz ～ 400Hz
0.441	0.75	LF 周波数範囲:200Hz ～ 400Hz
0.176	0.80	LF 周波数範囲:200Hz ～ 400Hz

システムがさまざまな低消費電力モードに移行する入力電力を直接設定できるため、バースト モードを動的に無効にすることで、システム設計の自由をさらに高めることができます。

ADVANCE INFORMATION

7.5.3.3 PFC オン / オフ

UCC256614-Q1 では、TSET ピンを PFC オン/オフ ロジックとして使用できます。初期のプログラミング フェーズの後、TSET は小信号 MOSFET (たとえば 2N7002) を駆動するために想定されるロジック出力ピンになります。UCC256614-Q1 が LF バースト モードで動作すると、PFC on/off 信号が high になります。LF バースト モードを終了すると、TSET ピンの電圧が low になります。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.5.3.4 モード遷移の管理

LL ピンを使用して、UCC25661x-Q1 ファミリ が HF パルス スキップおよび LF バースト モードに移行する電力レベルを設定できます。設定可能な 2 つのスレッショルドは、*HFBurstEntry* と *LFBursttEntry* です。この構成の詳細については、セクション 7.5.3.2 を参照してください。

図 7-20 に、バースト モードでの UCC25661x-Q1 の開始および終了動作を示します。

- *HFBurstEntry* は、システムが HF パルス スキップに入る目的の電力レベルにおける *FBReplica* 電圧に対応します。
- *LFBurstEntry* は、システムが LF Burst に移行する修正 *FBReplica* 電圧に対応します。
- *FBreplica* が HFBurstEntry を上回ると、UCC25661x-Q1 ファミリ は通常スイッチングで動作します。
- *FBreplica* が *HFBurstEntry* 未満で、*LFBurstEntry* より大きい場合、UCC25661x-Q1 ファミリは HF パルス スキップ モードで動作します。HF パルス スキップ モードでは、各パケットのエネルギーは引き続き制御信号 *FBReplica* によって制御されます。
- *FBreplica* が *LFBurstEntry* を下回ると、UCC25661x-Q1 は LF バースト モードで動作します。LF バースト モードでは、各パケットのエネルギーは *LFBurstEntry* スレッショルドに固定されます。
- LF バーストモードで動作しているときは、*FBReplica* が *LFBurstEntry* しきい値を上回ると、新しい LF バースト セグメントが開始されます。セグメントは、目的の数のパケットが配信され、*FBReplica* が *PacketStop* しきい値を下回ると終了します。
- LF バースト セグメント内の必要なパケット数が計算され、LF バースト動作周波数が 200Hz ～ 400Hz 以内に調整されます。
- 急激な負荷降下が発生した場合、出力の過電圧状態を回避するために LF バースト セグメントはただちに終端されます。

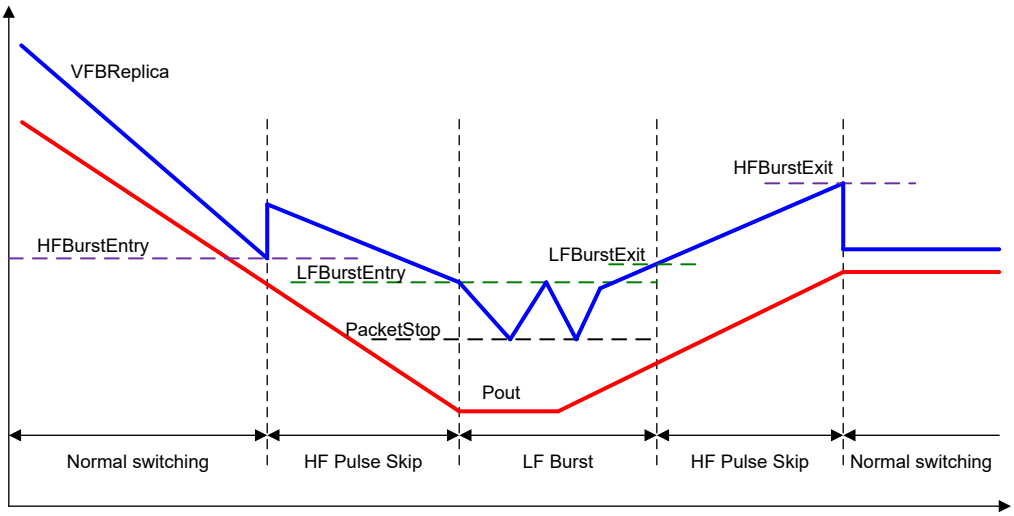


図 7-20. *FBReplica* コンパレータからのバースト モードの決定

ADVANCE INFORMATION

8 アプリケーションと実装

注

以下のアプリケーション情報は、テキサス・インスツルメンツの製品仕様に含まれるものではなく、テキサス・インスツルメンツはその正確性も完全性も保証いたしません。個々の目的に対する製品の適合性については、お客様の責任で判断していただくことになります。また、お客様は自身の設計実装を検証しテストすることで、システムの機能を確認する必要があります。

8.1 アプリケーション情報

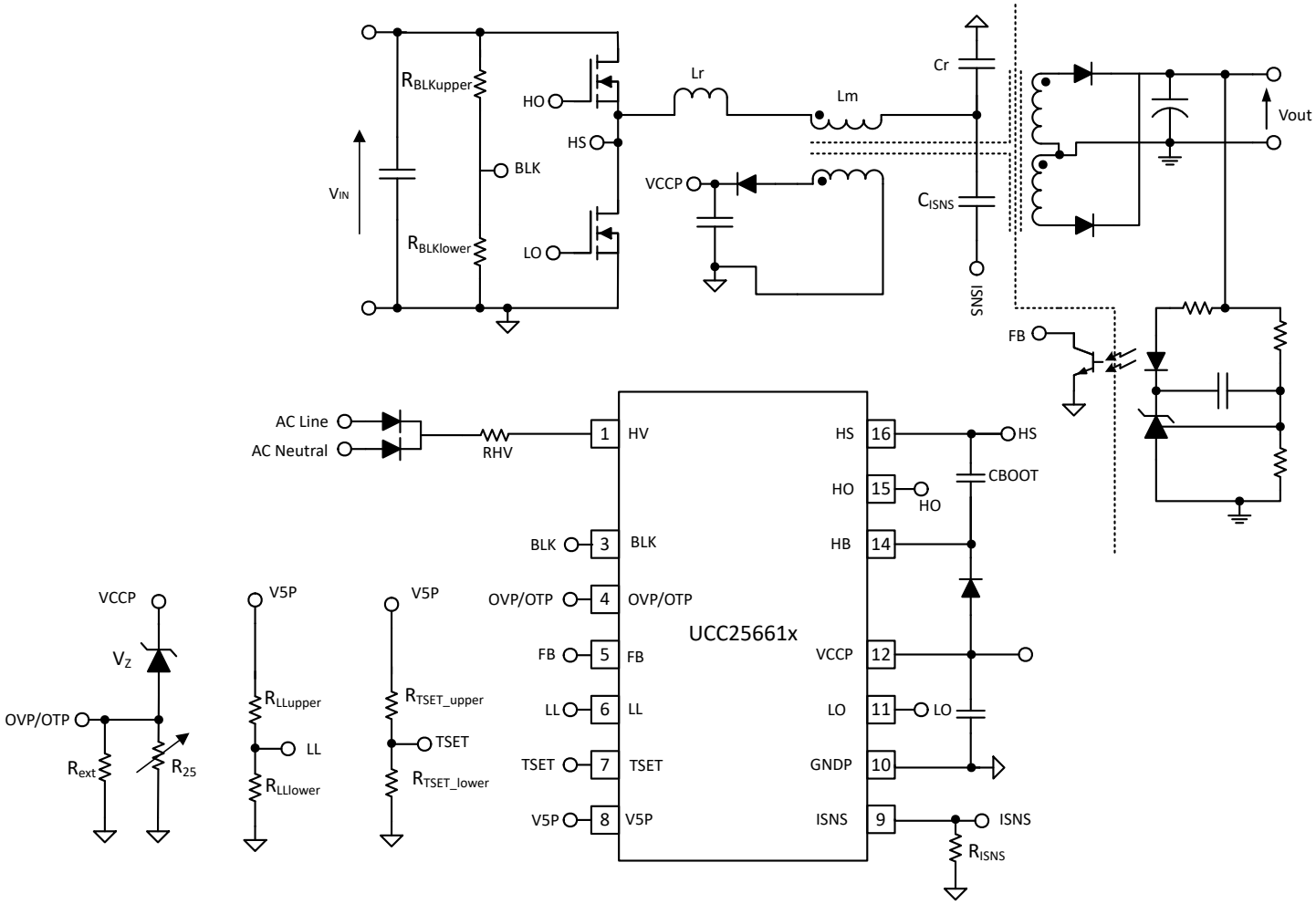
UC25661 は、LLC 方式が実装されている幅広いアプリケーションに使用できます。より簡単に使用できるよう、TI は次のようなツールを用意して、製品の機能を紹介しています。

- フル機能の EVM ハードウェア
- Excel 設計計算ツール
- シミュレーション モデル

以下に代表的な設計例を記載します。

8.2 代表的なアプリケーション

以下に UCC25661 をコントローラとする代表的なハーフ ブリッジ LLC アプリケーションを示します。



Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

ADVANCE INFORMATION

8.2.1 設計要件

設計仕様の概要を表 8-1 に示します。

表 8-1. システム設計仕様

パラメータ	テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
入力特性					
DC 電圧範囲		365	390	410	VDC
AC 電圧範囲		85		264	VAC
AC 電圧周波数		47		63	Hz
入力 DC UVLO オン			365		VDC
入力 DC UVLO オフ			315		VDC
出力特性					
出力電圧、VOUT	無負荷 ～ 全負荷		12		VDC
出力負荷電流、IOUT	360VDC ～ 410VDC			15	A
出力電圧リップル	390VDC および全負荷 = 15A のとき		120		mVpp
システム特性					
共振周波数			100		kHz
ピーク効率	390 VDC		92		
動作温度	自然対流		25		℃

ADVANCE INFORMATION

8.2.2 詳細な設計手順

8.2.2.1 LLC 電力段要件

設計は、LLC 電力段コンポーネントの各値を決めることから始まります。ここに述べる LLC 電力段の設計手順は、TI アプリケーション ノート『LLC 共振ハーフ ブリッジ パワー コンバータの設計』から引用したものです。このアプリケーション ノートでは、使用する各式の由来が十分に説明されています。以下の式は、LLC 方式の解析によく用いられる FHA (First Harmonic Approximation) 法に基づきます。この手法は、あらゆる設計の出発点には適しているものの、最終設計には FHA の結果、回路シミュレーション、ハードウェア テストを組み合わせる反復アプローチが必要です。TI アプリケーション ノート『SLUA733、UCC29950 の LLC 設計』には、これに代わる設計手法が記載されています。

8.2.2.2 LLC のゲイン範囲

まず、公称入力電圧と公称出力電圧から変圧器の巻数比を求めます。

$$N_{PS} = \frac{V_{IN(nom)} / 2}{V_{OUT(nom)}} = \frac{390 / 2}{12} = 16.25 \Rightarrow 16.5 \tag{10}$$

次に、LLC のゲイン範囲 $M_{G(min)}$ と $M_{G(max)}$ を決定します。整流ダイオードで 0.5V の降下 (V_f) があり、他の損失 (V_{loss}) により 0.5V が追加されていると仮定します。

$$M_{G(min)} = N_{PS} \frac{V_{OUT(min)} + V_f}{V_{IN(max)} / 2} = 16.5 \frac{12 + 0.5}{410 / 2} = 1.006 \tag{11}$$

$$M_{G(max)} = N_{PS} \frac{V_{OUT(max)} + V_f + V_{loss}}{V_{IN(min)} / 2} = 16.5 \frac{12 + 0.5 + 0.5}{365 / 2} = 1.175 \tag{12}$$

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

8.2.2.3 L_n と Q_e を選択します

L_n は、磁化インダクタンスと共振インダクタンスの間の比率を意味します。

$$L_N = \frac{L_M}{L_R} \tag{13}$$

Q_E は共振タンクの品質係数です。

$$Q_E = \frac{\sqrt{L_R / C_R}}{R_E} \tag{14}$$

この式において、re_E は等価負荷抵抗です。

L_N と Q_E の値を選択することにより、LLC ゲイン曲線が描かれ、$M_{G(min)}$ および $M_{G(max)}$ のパターンと交差する必要があります。結果として描かれる曲線のピーク ゲインは、$M_{G(max)}$ より大きくなっている必要があります。ここでは、L_N と Q_E の選択方法について詳述しません。これらは、Design Calculator で使用できます。

このケースでは、選択した L_N と Q_E の値は次のとおりです。

$$L_N = 6 \tag{15}$$

$$Q_E = 0.3 \tag{16}$$

8.2.2.4 等価負荷抵抗の選定

式 17 により等価負荷抵抗を求めます。

$$R_E = \frac{8 \times N_{PS}^2}{\pi^2} \times \frac{V_{OUT(nom)}}{I_{OUT(nom)}} = \frac{8 \times 16.5^2}{\pi^2} \times \frac{12}{15} = 176.5\Omega \tag{17}$$

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

8.2.2.5 LLC 共振回路の部品パラメータの決定

共振タンク コンポーネント パラメータを求める前に、公称スイッチング周波数(共振周波数)を選択する必要があります。この設計では、共振周波数として 100kHz を選択します。

$$f_0 = 100\,kHz \tag{18}$$

共振タンク パラメータは次のように計算できます。

$$C_R = \frac{1}{2\pi \times Q_E \times f_0 \times R_E} = \frac{1}{2\pi \times 0.3 \times 100\,kHz \times 176.5\,\Omega} = 30.0\,nF \tag{19}$$

$$L_R = \frac{1}{(2\pi \times f_0)^2 C_R} = \frac{1}{(2\pi \times 100\,kHz)^2 \times 30.0\,nF} = 84.4\,\mu H \tag{20}$$

$$L_M = L_N \times L_R = 6 \times 84.4\,\mu H = 506.4\,\mu H \tag{21}$$

予備パラメータを選択したら、最も近い実際のコンポーネントの値で利用できるものを見つけ、選択したパラメータで利得曲線を再確認し、時間領域シミュレーションを実行して回路動作を検証します。

次の共振タンク パラメータは以下のとおりです。

$$C_R = 30\,nF \tag{22}$$

$$L_R = 85\ \mu H \tag{23}$$

$$L_M = 510\,\mu H \tag{24}$$

最終共振タンク パラメータに基づき、共振周波数は次のように計算できます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

$$f_0 = \frac{1}{2\pi\sqrt{L_R C_R}} = \frac{1}{2\pi\sqrt{30\,nF \times 85\,\mu H}} = 99.7\,kHz \tag{25}$$

新しい LLC ゲイン曲線に基づき、最大および最小ゲインでの正規化したスイッチング周波数は次のように求められます。

$$f_{N(Mgmax)} = 0.7 \tag{26}$$

$$f_{N(Mgmin)} = 1.0 \tag{27}$$

最大および最小スイッチング周波数は次のとおりです。

$$f_{SW(Mgmax)} = 69.8\,kHz \tag{28}$$

$$f_{SW(Mgmin)} = 99.7\,kHz \tag{29}$$

8.2.2.6 LLC の 1 次側の電流

コンポーネントを選択するために、1 次側電流を計算します。この電流は 110% の過負荷条件に基づいて計算します。1 次側 RMS 負荷電流は次の式で求められます。

$$I_{OE} = \frac{\pi}{2\sqrt{2}} \times \frac{I_o}{n} = \frac{\pi}{2\sqrt{2}} \times \frac{1.1 \times 15\,A}{16.5} = 1.111\,A \tag{30}$$

最小スイッチング周波数での RMS 磁化電流は次の式で求められます。

ADVANCE INFORMATION

$$I_M = \frac{2\sqrt{2}}{\pi} \times \frac{N_{PS} V_{OUT}}{\omega L_M} = \frac{2\sqrt{2}}{\pi} \times \frac{16.5 \times 12}{2\pi \times 64.8\,kHz \times 510\,\mu H} = 0.797\,A \tag{31}$$

共振タンクの総電流は次の式で求められます。

$$I_R = \sqrt{I_M^2 + I_{OE}^2} = \sqrt{(1.111\,A)^2 + (0.797\,A)^2} = 1.367\,A \tag{32}$$

8.2.2.7 LLC の 2 次側の電流

2 次側の総 RMS 負荷電流は、1 次側電流 (I_{OE}) から 2 次側に換算した電流です。

$$I_{OES} = N_{PS} \times I_{OE} = 16.5 \times 1.111\,A = 18.327\,A \tag{33}$$

この設計では、変圧器の 2 次側にセンタータップ (巻線の中間を引き出した端子) が付いています。各 2 次側変圧器巻線の電流は次の式で計算できます。

$$I_{WS} = \frac{\sqrt{2} \times I_{OES}}{2} = \frac{\sqrt{2} \times 18.327\,A}{2} = 12.959\,A \tag{34}$$

該当する半波平均電流は次のとおりです。

$$I_{SAV} = \frac{\sqrt{2} \times I_{OES}}{\pi} = \frac{\sqrt{2} \times 18.327\,A}{\pi} = 8.250\,A \tag{35}$$

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

8.2.2.8 LLC 変圧器

HV セルフ起動機能を利用するには、バイアス巻線が必要です。VCC 電圧が 12V を上回るようにバイアス巻線を設計することをお勧めします。

変圧器は、以下の仕様で構築または購入できます。

- 巻数比:1 次側:2 次側:バイアス = 33:2:3
- 1 次端子電圧:450V_{PK}
- 1 次側磁化インダクタンス: L_M = 510µH
- 1 次側巻線定格電流:I_R = 1.367A
- 2 次端子電圧:36V_{PK}
- 2 次巻線定格電流: I_{WS} = 12.959A
- 最小スイッチング周波数:69.8kHz
- 最大スイッチング周波数:99.7kHz
- 1 次側と 2 次側の絶縁:IEC60950 強化絶縁

通常動作時の最小動作周波数は上記で計算されます。広い入力範囲の LLC として動作する一部のアプリケーションでは、スタンバイ モードで PFC がシャットオフされる可能性があるため、重負荷シャットダウン中は動作周波数が大幅に低下する可能性があり、LLC は ZCS 境界をわずかに上回る、低い周波数で動作できます。共振回路、変圧器、共振インダクタの磁性部品の定格は、この低い周波数で動作するものとします。

バイアス電圧は、巻線比に従って 18V となります。コントローラの電圧を 15V に低減するために、コントローラの VCCP に電力を供給する前に、EVM で電圧レギュレータ回路を使用しています。

8.2.2.9 LLC 共振インダクタ

共振インダクタの AC 電圧は、そのインピーダンスと電流を掛けた値で求められます。

$$V_{L_R} = \omega L_R I_R = 2\pi \times 69.8\text{kHz} \times 85\mu\text{H} \times 1.367\text{A} = 50.946V \tag{36}$$

インダクタは、以下の仕様で構築または購入できます。

- インダクタンス: L_R = 85µH
- 定格電流:I_R = 1.367A
- 端子 AC 電圧:50.946V
- 周波数範囲:ARM:69.8kHz ～ 99.7kHz

一部の設計では、トランスの漏れインダクタンスを共振インダクタンスとして利用しており、外部共振インダクタを必要としない場合があることに注意してください。

8.2.2.10 LLC 共振コンデンサ

この容量はスイッチング周波数でフル 1 次電流を伝導します。過熱を防止するため、散逸係数の小さいコンデンサが必要です。

共振容量の AC 電圧は、そのインピーダンスと電流を掛けた値で求められます。

$$V_{CR} = \frac{I_R}{\omega C_R} = \frac{1.367\text{A}}{2\pi \times 69.8\text{kHz} \times 30\text{nF}} = 104.0\,V \tag{37}$$

ADVANCE INFORMATION

$$V_{CR(rms)} = \sqrt{\left(\frac{V_{IN(max)}}{2}\right)^2 + V_{CR}^2} = \sqrt{\left(\frac{410}{2}\right)^2 + 104.0^2} = 229.9\,V \tag{38}$$

ピーク電圧:

$$V_{CR(peak)} = \frac{V_{IN(max)}}{2} + \sqrt{2}V_{CR} = \frac{410}{2} + \sqrt{2} \times 104.0 = 352.0\,V \tag{39}$$

谷電圧:

$$V_{CR(valley)} = \frac{V_{IN(max)}}{2} - \sqrt{2}V_{CR} = \frac{410}{2} - \sqrt{2} \times 104.0 = 58.0\,V \tag{40}$$

定格電流:

$$I_R = 1.367\,A \tag{41}$$

8.2.2.11 LLC の 1 次側 MOSFET

各 MOSFET は、入力電圧をそれぞれの最大印加電圧と認識します。次のように MOSFET の定格電圧は最大バルク電圧の 1.5 倍とします。

$$V_{QLLC(peak)} = 1.5 \times V_{IN(max)} = 615\,V \tag{42}$$

次のように MOSFET の定格電流は最大 1 次側 RMS 電流の 1.1 倍とします。

$$I_{QLLC} = 1.1 \times I_R = 1.504\,A \tag{43}$$

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

8.2.2.12 アダプティブ デッドタイムの設計における考慮事項

共振タンクを設計して、1 次側 MOSFET を選定したら、コンバータの ZVS 動作を再確認する必要があります。ゲート ターンオフ エッジで、スイッチ ノードの容量を放電するのに十分な電流が共振インダクタに残っていなければ、ZVS は実現しません。UC256604 は、スイッチのスルーイングに基づくアダプティブ デッドタイムを実装しています。スルー検出回路の検出範囲は 0.1V/ns ～ 200V/ns です。

ZVS 動作を確認するには、一連の時間領域シミュレーションを実行し、ゲート オフ エッジでの共振電流を捕捉します。プロット例を以下に示します。

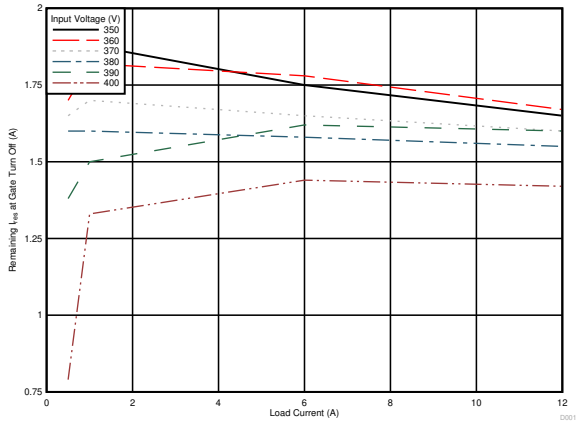


図 8-1. アダプティブ デッドタイム

上記の図は、5% 負荷で最大スイッチング周波数が生じ、5% 負荷でシステムがバーストを開始すると仮定したものです。

このプロットによれば、当該動作範囲で、タンクに残っている最小共振電流は I_{min} = 0.8A です。スルーレートを計算するには、1 次側スイッチ ノードの寄生容量を知る必要があります。この値は MOSFET のデータシートから推計できます。このケースでは、$C_{switchnode}$ = 400pF です。最小スルー レートは次の式で求められます。

$$\frac{I_{MIN}}{C_{switchnode}} = \frac{0.8\,A}{400\,pF} = 2\,V/ns \tag{44}$$

これは、0.1V/ns の最小検出可能スルー レートを上回っています。

8.2.2.13 LLC 整流ダイオード

出力ダイオードの定格電圧は、次の式で与えられます。

$$V_{DB} = 1.2 \times \frac{V_{IN(max)}}{N_{PS}} = 1.2 \times \frac{410}{16.5} = 29.82V \tag{45}$$

出力ダイオードの定格電流は、次の式で求められます。

$$I_{SAV} = \frac{\sqrt{2} \times I_{OES}}{\pi} = \frac{\sqrt{2} \times 18.329}{\pi} = 8.250\,A \tag{46}$$

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

8.2.2.14 LLC 出力コンデンサ

LLC コンバータトポロジは出力フィルタを必要としませんが、小型の 2 次段フィルタ インダクタは出力ノイズ最大値と最小値との差を低減するために役立ちます。出力容量が整流器の全波出力電流を伝導するものと仮定すると、容量の定格リプル電流は次のとおりです。

$$I_{RECT} = \frac{\pi}{2\sqrt{2}} I_{OUT} = \frac{\pi}{2\sqrt{2}} \times 15 = 16.66\,A \tag{47}$$

12V の出力電圧に対して定格 20V を採用します。

$$V_{LLCcap} = 20\,V \tag{48}$$

この容量の RMS 定格電流は次のとおりです。

$$I_{C(out)} = \sqrt{\left(\frac{\pi}{2\sqrt{2}} I_{OUT}\right)^2 - I_{OUT}^2} = \sqrt{\left(\frac{\pi}{2\sqrt{2}} \times 15\right)^2 - 15^2} = 7.251A \tag{49}$$

導電性高分子技術を採用した固体アルミニウム容量は、定格リップル電流が高いため、特に設計がより低い温度で動作する必要がある場合には、良い選択肢となります。1 つの容量の定格リップル電流では十分でないため、多くの場合、複数の容量を並列接続します。

LLC 段の出力時のリップル電圧は、容量に流れる AC 電流量の関数です。この電圧を推計するため、負荷の DC 電流を含むすべての電流がフィルタ容量に流れるものと仮定します。

$$ESR_{max} = \frac{V_{OUT(pk-pk)}}{I_{RECT(pk)}} = \frac{0.12\,V}{2\frac{\pi}{4} \times 15\,A} = 5.1\,m\Omega \tag{50}$$

容量の仕様は次のとおりです。

- 電圧定格:20V
- リップル電流定格:7.251A
- ESR:< 5.1mΩ

8.2.2.15 HV ピン直列抵抗

HV ピンに複数の抵抗を直列に接続することで、UC25660 デバイスの消費電力を制限できます。推奨する HV ピン直列抵抗は 5kΩ です。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

8.2.2.16 BLK ピン分圧器

BLK ピンは LLC DC 入力電圧を検知して、LLC コンバータをオンおよびオフにするタイミングを決定します。また、BLK ピンの電圧はフィードフォワード補償にも使用されます。

BLK ピン分圧抵抗の望ましい消費電力は P_{BLKsns} = 15mW です。BLK が検知する抵抗の合計値は次の式で求められます。

$$R_{BLKsns} = R_{BLKupper} + R_{BLKlower} = \frac{V_{IN(nom)}{}^2}{P_{BLKsns}} = \frac{390^2}{0.015} = 10M\Omega \tag{51}$$

LLC スタートアップ電圧を 365V に選択します。次に、以下のように $V_{BLKStop}$、$V_{BLKStartHys}$、$I_{BLKSink}$ に関係する $V_{BLKStart}$ を示します。

$$V_{BLKStart} = 365\left(\frac{R_{BLKlower}}{R_{BLKupper} + R_{BLKlower}}\right) = V_{BLKStop} + V_{BLKStartHys} + I_{BLKsink}\left(\frac{R_{BLKupper}R_{BLKlower}}{R_{BLKupper} + R_{BLKlower}}\right) \tag{52}$$

$V_{BLKStop}$ = 1V、$V_{BLKStartHys}$ = 0.1V、$I_{BLKSink}$ =5μA、$R_{BLKupper}$および$R_{BLKlower}$は、それぞれ$10M\Omega$および$35.4k\Omega$ように得られます。

$R_{BLKlower}$ には標準値 35.4kΩ が選択され、$R_{BLKupper}$ には標準値として 3x 3.3MΩ が直列として選択されます。

実際のスタートアップ電圧は、次で与えられます

$$V_{BLKStart}\left(\frac{R_{BLKupper} + R_{BLKlower}}{R_{BLKlower}}\right) = \left(\begin{matrix} V_{BLKStop} + V_{BLKStartHys} + \\ I_{BLKSink}\left(\frac{R_{BLKupper}R_{BLKlower}}{R_{BLKupper} + R_{BLKlower}}\right)\end{matrix}\right) \cdot \left(\frac{R_{BLKupper} + R_{BLKlower}}{R_{BLKlower}}\right) = 358V \tag{53}$$

BLK 抵抗の消費電力はで求められます

$$P_{BLKsns} = \frac{V_{IN(nom)}{}^2}{(R_{BLKupper} + R_{BLKlower})} = \frac{390^2}{(10M\Omega + 35.4k\Omega)} = 15.3mW \tag{54}$$

LLC ターン オフ電圧は、次で与えられます

$$V_{BLKStop}\left(\frac{R_{BLKupper} + R_{BLKlower}}{R_{BLKlower}}\right) = 280.6V \tag{55}$$

8.2.2.17 ISNS ピン微分器

ISNS 端子は微分器により共振電流を検知します。ISNS ピンを TSET、BLK ピンの抵抗と組み合わせることで、過負荷保護レベルを設定できます。過負荷保護 (V_{FBOLP}) の標準スレッショルド電圧は 4.75V です。ISNS 端子は過電流保護レベル (OCP1) の設定にも使用できます。OCP1 のスレッショルド値は、使用している TSET ピンの抵抗とバリアントに応じて 3.5V または 4V です。この評価基板の場合、UCC256611 を使用しています。そのため、このバリアントでは、OCP1 閾値電圧は 3.5V です。

全負荷時のピーク共振インダクタ電流

$$I_{R_PEAK} = \sqrt{2}I_R = \sqrt{2} \times 1.367 = 1.933A \tag{56}$$

抵抗に比べて高電圧容量の選択肢は少ないため、まず電流検知容量を選定します。

$$C_{ISNS} = 150pF \tag{57}$$

この設計では、UCC256611 を使用します。そのため、このバリアントでは、OCP1 閾値電圧は 3.5V です。

ADVANCE INFORMATION

$$OCP1_Threshold = 3.5V \tag{58}$$

それから必要な ISNS 抵抗値を計算します。

$$R_{ISNS} < \frac{OCP1_Threshold \cdot C_r}{I_{R_PEAK} \cdot C_{ISNS}} = \frac{3.5V \cdot 30nF}{1.933A \cdot 150pF} = 329\Omega \tag{59}$$

$R_{ISNS} = 226\Omega$が選択されます。

OCP1 レベルでのピーク共振電流は次の式で与えられます。

$$I_{R_PEAK_OCP1} = \frac{OCP1_Threshold \times C_r}{R_{ISNS} \times C_{ISNS}} = \frac{3.5 \times 30nF}{226 \times 150pF} = 3.097A \tag{60}$$

8.2.2.18 TSET ピン

TSET ピン抵抗は、VCR 積分器の時定数 (タイマ ゲイン (k_s) 、R_{VCR}、R_{RAMP}、C_{VCR}) 、および IPPC モードの最小スイッチング周波数を設定するために使用します。これらの抵抗は、特定の出力電力に対する $V_{FBreplica}$ 電圧も決定します。

UCC256611 の場合、「VCR 積分器ゲインを TSET 差動電圧計算により設定」オプションが有効になります。

$f_{SW(Mgmin)}$ に基づいて V_{TSETB} 電圧オプションを選択し、最小入力電圧および最大出力電力時に全負荷動作周波数を観測します。この設計では、最小入力電圧 365V、定格出力電力において、観測される全負荷動作周波数が 89kHz であるため、オプション #4 を選択します。したがって、オプション #4 の場合、表 TSET プログラミング オプション表に示すように、V_{TSETB} 電圧は 0.742V±48mV の範囲内にする必要があります。

特定の電力出力に対して FBReplica の振幅を設定するために、(V_{TSETA}-V_{TSETB}) 電圧を選択します。この差動電圧は、図 8-2 に示すように、定格電力で、ワースト ケースに必要なマージンを使用して、FBReplica の振幅が V_{FBOLP} を下回るように選択する必要があります。この設計では、この TSET 電圧差を測定するためにオプション #5 を選択します。これにより、VCR 積分器の時定数と、選択した ISNS および BLK 抵抗とともに、FBReplica の振幅が最大入力電力で 4V に近い値になります。したがって、オプション #5 の場合、(V_{TSETA}-V_{TSETB}) 電圧は、表 TSET プログラミング オプション表に示すように 0.850V±48mV の範囲内にする必要があります。

$$V_{TSETB} = \frac{R_{TSET_lower} \cdot V5P}{R_{TSET_lower} + R_{TSET_upper}} \tag{61}$$

$$V_{TSETA} = V_{TSETB} + \frac{R_{TSET_lower} \cdot R_{TSET_upper}}{R_{TSET_lower} + R_{TSET_upper}} \cdot I_{TSETPrgm} \tag{62}$$

上記の 2 つの式を解くことにより、R_{TSET_upper} と R_{TSET_lower} はそれぞれ 572.78kΩ および 99.81kΩ として求められます。

最後に、R_{TSET_upper} = 576kΩ かつ R_{TSET_lower} = 100kΩ を選択します。

最終的な V_{TSETB} および (V_{TSETA}-V_{TSETB}) は次のように計算できます。

$$V_{TSETB} = \frac{100k \cdot 5V}{100k + 576k} = 0.74V \tag{63}$$

$$\left(V_{TSETA} - V_{TSETB}\right) = \frac{100k \cdot 576k}{100k + 576k} \cdot 10\mu A = 0.852V \tag{64}$$

図 8-2 に、LLC の入力電力に対する FBReplica 電圧を示します。

ここでは、P_{in} を計算するために、次の式で 92% の効率を考慮します。

$$P_{in} = \frac{P_{out}}{\eta} \tag{65}$$

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

ADVANCE INFORMATION

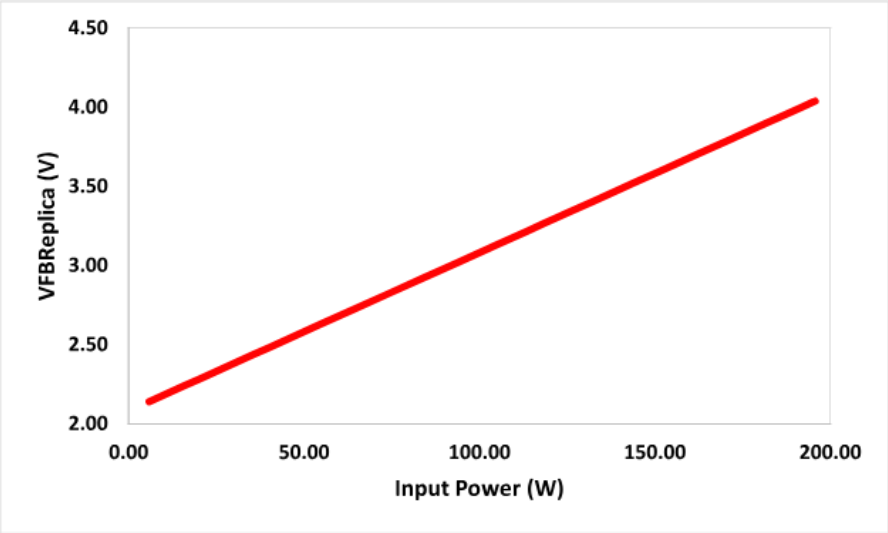


図 8-2. FBReplica と P_{in} の比較

FBReplica 電圧は、帰還オプトカプラ エミッタとグランドの間に 10kΩ の抵抗を入れることによって測定できます。10kΩ 抵抗で測定された電圧が V_{10k} であると仮定します。FBReplica 電圧スレッショルドは、次のようにで計算できます。

$$FBReplica = \left(I_{FB} - \frac{V_{10k\Omega}}{10k\Omega}\right) \times R_{FBInternal} \tag{66}$$

8.2.2.19 OVP/OTP ピン

OVP/OTP は、電力段を過電圧から保護するために使用されます。また、負の温度係数 (NTC) サーミスタを使用した過熱保護のためにも同じピンが使用されます。バイアス巻線電圧は、トランスの巻線比による出力電圧のミラーイメージであるため、このピンをツェナー ダイオードでプルアップすると、OVP を 1 次側に設定するのに便利です。このデザインで、公称出力電圧は 12V です。2 次側巻線とのバイアス巻線比は 1.5 です。整流ダイオード (Vf) で 0.5V の降下があり、他の損失 (Vloss) によりさらに 0.5V の降下があると仮定すると、バイアス巻線の公称電圧は次の式で求められます。

$$V_{BiasWindingNom} = (12 + 0.5 + 0.5) \cdot \frac{N_{aux}}{N_2} = (12 + 0.5 + 0.5) \cdot \frac{3}{2} = 19.5V \tag{67}$$

この設計に望ましい OVP 閾値は、公称値の 140% です。UC25661 デバイスの OVP スレッショルド レベル (V_{OVPpos}) は 3.5V です。

これにより、ツェナー ダイオードに必要な電圧定格は次の式で求められます。

$$V_z = (1.4 \cdot V_{out} + V_{drop}) \cdot \frac{N_{aux}}{N_2} - V_{OVPpos} = (1.4 \cdot 12 + 0.5 + 0.5) \cdot \frac{3}{2} - 3.5 = 23.2V \tag{68}$$

使用されるツェナーの実際の電圧定格は 23V と仮定します。

次に OVP がトリガされる実際の出力電圧が決まります

$$V_{out_ovp} = (V_z + V_{OVPpos}) \cdot \frac{N_2}{N_{aux}} - V_{drop} = (23 + 3.5) \cdot \frac{2}{3} - 1 = 16.67V = 139\% \cdot V_{out} \tag{69}$$

通常動作中は、OVP/OTP ピンの電圧は 0.8V ～ 3.5V の動作ウィンドウ内になる必要があります。過熱保護のため、OVP/OTP ピンは OTP スレッショルド 0.8V 未満にプルダウンされます。

ADVANCE INFORMATION

室温では、OVP/OTP ピンの電圧は 1.4V と見なされます。そのため、室温でのこのピンの実効抵抗値は以下のとおりです

$$R_{OVP/OTP_25} = \frac{1.4V}{I_{OVP_OTP}} = \frac{1.4V}{100 \cdot 10^{-6}A} = 14k\Omega \tag{70}$$

$$R_{OVP/OTP_25} = \frac{R_{ext} \cdot R_{NTC_25}}{R_{ext} + R_{NTC_25}} = 14k\Omega \tag{71}$$

ここで R_{ext} は、サーミスタと並列に接続された外付け抵抗です。R_{NTC_25} は室温でのサーミスタの抵抗値です。

この設計では、過熱保護機能を 110^0C に設定しています。NTC の利用可能性と温度係数に基づいて、

$$\frac{R_{NTC_110}}{R_{NTC_25}} = 0.035263 \tag{72}$$

(B57371V2474J060 データシートを参照) を選択しました。ここで、R_{NTC_110} は 110^0C におけるサーミスタの抵抗です。

OTP トリガの場合、OVP/OTP ピンの電圧は 0.8V 未満にする必要があります。

$$R_{OVP/OTP_110} = \frac{0.8V}{I_{OVP_OTP}} = \frac{0.8V}{100 \cdot 10^{-6}A} = 8k\Omega \tag{73}$$

$$R_{OVP/OTP_110} = \frac{R_{ext} \cdot R_{NTC_110}}{R_{ext} + R_{NTC_110}} = 8k\Omega \tag{74}$$

式、式 71、式 72、式 74R_{NTC_25} および R_{ext} は 510kΩ および 14.4kΩ として得られます。最終的に、R_{NTC_25} = 470kΩ (メーカー型番:B57371V2474J060) と R_{ext} = 15kΩ を選択しています。

そのため、室温では、新しい抵抗を選択したときに、OVP/OTP 電圧が決まります

$$R_{OVP/OTP_25} \cdot I_{OVP_OTP} = \left(\frac{15k \cdot 470k}{15k + 470k}\right) \cdot 100 \cdot 10^{-6} = 1.454V \tag{75}$$

110^0C では、OVP/OTP 電圧は、次のとおりです。

$$R_{OVP/OTP_110} \cdot I_{OVP_OTP} = \left(\frac{15k \cdot (470k \cdot 0.035263)}{15k + (470k \cdot 0.035263)}\right) \cdot 100 \cdot 10^{-6} = 0.78V \tag{76}$$

8.2.2.20 バースト モード プログラミング

LL ピンの電圧 (VLLB) と、LL ピンに接続されている分圧抵抗により、ユーザーは以下の式に示すように HFBurstEntry スレッショルドと LFBurstEntry スレッショルドを設定できます。

$$VLLB = \frac{R_{LL_lower} \cdot V5P}{R_{LL_upper} + R_{LL_lower}} \tag{77}$$

$$VLLA = VLLB + \frac{R_{LL_lower} R_{LL_upper}}{R_{LL_upper} + R_{LL_lower}} \cdot I_{LLPrgm} \tag{78}$$

表 7-1 に示すように、(V_{LLA} - V_{LLB}) 電圧によって V_{LLB}/HFBurstEntry 比 (a) が決まります。

この設計では、(V_{LLB}/HFBurstEntry) = 0.55 を考慮します。このため、(V_{LLA} – V_{LLB}) の値は 1.087V ～ 1.391V の範囲内にある必要があります。

次に、HFBurstEntry は、以下のような LL ピンの電圧と関係します。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

$$HFBurstEntry = \frac{VLLB}{0.55} = 1.818 \cdot VLLB \tag{79}$$

LFBurstEntry は、常に以下の LL ピンの電圧に関係します。

$$LFBurstEntry = \frac{VLLB}{0.6} = 1.667 \cdot VLLB \tag{80}$$

FBReplica とピンの曲線の関係に基づき、目的の性能を満たすように V_{LLB} およびハードウェア テスト V_{LLA} - V_{LLB} を調整することもできます。

この設計では、VLLB = 1.2V、VLLA = ((VLLA – VLLB) の最大電圧) - 0.1V を考慮しています。これらの値を式 77、式 78、$R_{LLupper}$、$R_{LLlower}$ に代入すると、それぞれ 538k と 170k になります。

最後に、この設計では $R_{LLupper}$ = 536kΩ、$R_{LLlower}$ = 169kΩ が選択されています。

その後、最終的なバースト エントリは以下の式で計算します。

$$VLLB = \frac{169k \cdot 5}{169k + 536k} = 1.199V \tag{81}$$

$$VLLA = 1.199V + \frac{169k \cdot 536k}{169k + 536k} \cdot 10\mu A = 2.483V \tag{82}$$

$$VLLA - VLLB = 1.285V \tag{83}$$

$$HFBurstEntry = 1.818 \cdot 1.199 = 2.179V \tag{84}$$

$$LFBurstEntry = 1.667 \cdot 1.199 = 1.998V \tag{85}$$

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

8.2.2.21 アプリケーション曲線

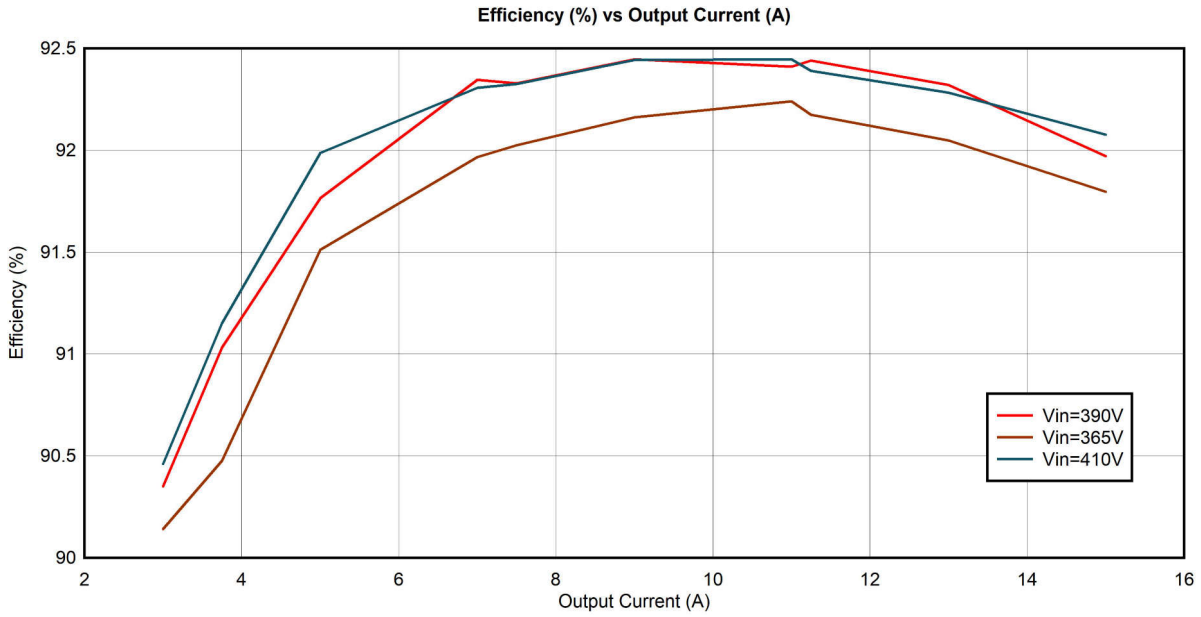


図 8-3. 効率

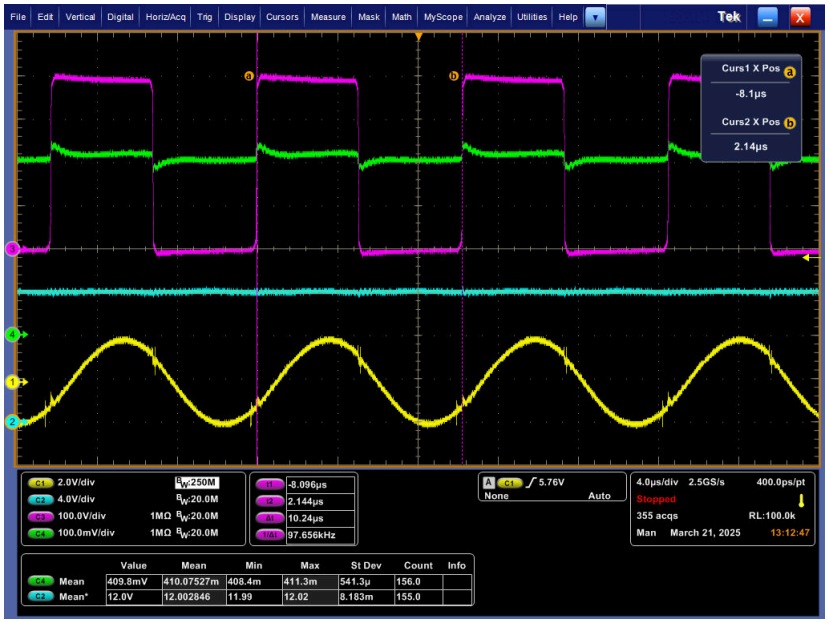


図 8-4. 390V 入力における 15A 負荷の定常状態波形 (Ch1 = ISNS、Ch2 = Vout、Ch3 = SW、Ch4 = I_OPT)

8.3 電源に関する推奨事項

8.3.1 VCCP ピン コンデンサ

LF バースト動作中に VCCP が $VCC_{StopSwitching}$ レベルを下回らないことを保証するのに十分な値の VCCP コンデンサを選択する必要があります。

100µF 以上の容量を持つコンデンサ、またはコンデンサの組み合わせを選択します。VCCP ピンのコンデンサは、LF バースト動作時の静止電流と、VCCP の高周波電流の低インピーダンス パスをサポートする必要があります。DC バイアス

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

電圧のセラミック コンデンサのディレーティングは、メーカーのデータシートを使用して、コンデンサを選択するときに考慮する必要があります。

8.3.2 ブート・キャパシタ

LF バースト オフ期間中は、HB ピンから 1 次側ゲート ドライバが消費する電力を C_{BOOT} から引き出す必要があるため、その電圧が減衰することになります。次のバースト期間の開始時には、1 次側ゲート ドライバを駆動するのに十分な電圧が C_{BOOT} に残っていなければならず、その後、LO の導通期間でそれは C_{VCCP} から補充されます。したがって、このバースト オフ期間中に 1 次側ドライバが消費する電力は、HB および VCCP に接続する必要がある容量のサイズとコストに直接影響します。

システムの最大バースト オフ期間が 150ms で、ブートストラップ ダイオードの順方向電圧降下が 1V と仮定します。UVLO フォルトを防止するため、8V の最小ブートストラップ電圧を目標とします。ブート コンデンサの最大許容電圧降下は次のとおりです。

$$V_{bootmaxdrop} = V_{VCCP} - V_{bootforwarddrop} - 8V = 12V - 1V - 8V = 3V \tag{86}$$

そこで、ブート容量のサイズが決まります。

$$C_B = \frac{I_{BOOT_QUIESCENT}}{V_{bootmaxdrop}} = \frac{60\mu A \times 150ms}{3V} = 3uF \tag{87}$$

低リーク電流、低 ESR のセラミック コンデンサを選択します。DC バイアス電圧のセラミック コンデンサのディレーティングは、メーカーのデータシートを使用して、コンデンサを選択するときに考慮する必要があります。

8.3.3 V5P ピン コンデンサ

このピンは、GND との間にデカップリング コンデンサを外部から接続する必要があります。このピンの負荷は非常に小さいため、4.7µF の小さなデカップリング コンデンサを推奨します。

ADVANCE INFORMATION

8.4 レイアウト

8.4.1 レイアウトのガイドライン

- エネルギー蓄積電解容量に加えて、2.2μF セラミック コンデンサを VCCP ピンに接続します。2.2μF セラミック コンデンサは、VCCP ピンのできるだけ近くに配置する必要があります。
- 推奨される最小ブート キャパシタ C_B は 0.1μF です。ブート容量の最小値は、最小バースト周波数によって決定する必要があります。ブート容量は、最も低いバースト周波数の間、ブート ストラップ電圧を保持するのに十分な大きさを備えたものとします。電気的特性表の I_{BOOT_LEAK} (ブート リーク電流) を参照してください。
- 信号グランドと電源グランドをシングル ポイントで接続します。LLC コンバータの入力バルク コンデンサの負端子に接続するため、電源グランドを推奨します。
- ISNS (100pF) 、BLK (10nF) 、LL (330pF) 、TSET (220pF) 、OVP/OTP (100pF) のフィルタ コンデンサは、それぞれのピンにできるだけ近づけて配置してください。
- FB 配線はできるだけ短くし、FB 配線は dv/dt の高い配線から離して配線します。
- 歪みを小さくするために、ISNS 容量にはフィルム コンデンサまたは C0G (NP0) セラミック コンデンサを使用します
- バイアス巻線波形の高いスパイクを除去するために、必要なフィルタリング コンデンサを VCCP ピンに追加します。
- 必要な高電圧空間距離と沿面距離を確保します。
- HV ピンに 2kV の HBM ESD 定格が必要な場合は、最大 2kV の HBM ESD に合格するために、HV ピンとグランドの間に 100pF のコンデンサを配置できます。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

8.4.2 レイアウト例

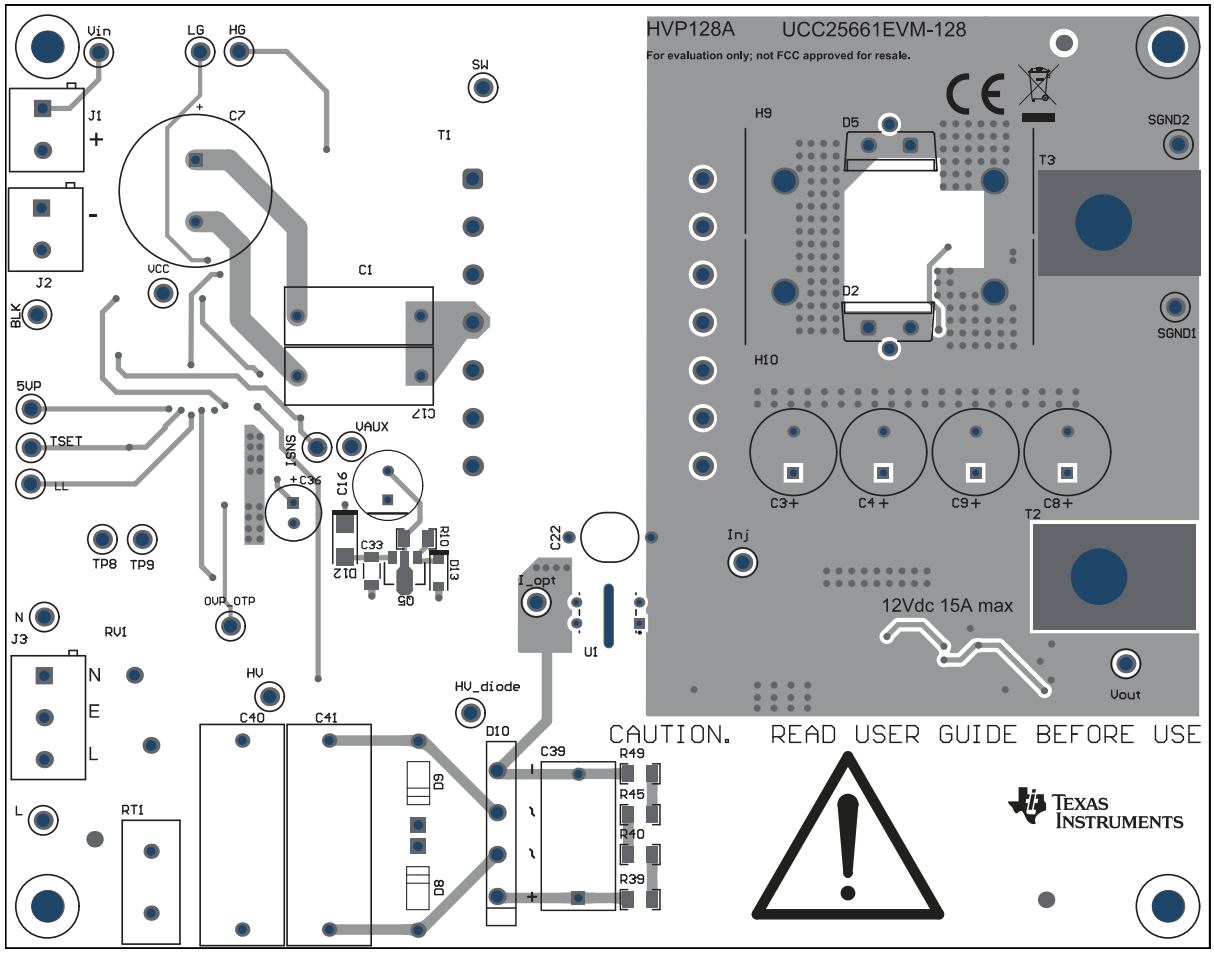


図 8-5. UCC25661EVM-128 (上面図)

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

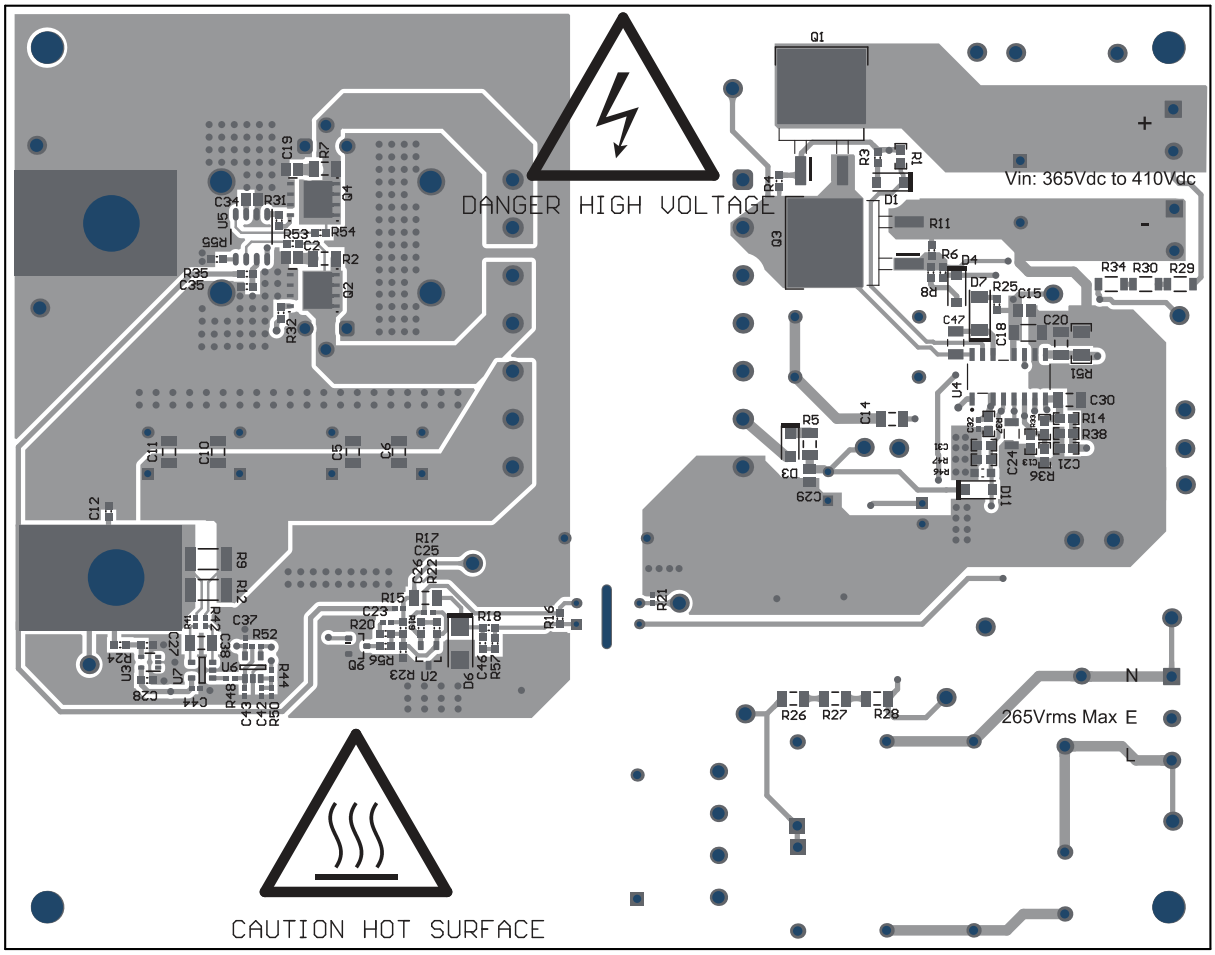


図 8-6. UCC25661EVM-128 (底面図)

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

9 デバイスおよびドキュメントのサポート

テキサス・インスツルメンツでは、幅広い開発ツールを提供しています。デバイスの性能の評価、コードの生成、ソリューションの開発を行うためのツールとソフトウェアを以下で紹介します。

9.1 ドキュメントの更新通知を受け取る方法

ドキュメントの更新についての通知を受け取るには、www.tij.co.jp のデバイス製品フォルダを開いてください。[通知] をクリックして登録すると、変更されたすべての製品情報に関するダイジェストを毎週受け取ることができます。 変更の詳細については、改訂されたドキュメントに含まれている改訂履歴をご覧ください。

9.2 サポート・リソース

テキサス・インスツルメンツ E2E™ サポート・フォーラムは、エンジニアが検証済みの回答と設計に関するヒントをエキスパートから迅速かつ直接得ることができる場所です。既存の回答を検索したり、独自の質問をしたりすることで、設計で必要な支援を迅速に得ることができます。

リンクされているコンテンツは、各寄稿者により「現状のまま」提供されるものです。これらはテキサス・インスツルメンツの仕様を構成するものではなく、必ずしもテキサス・インスツルメンツの見解を反映したものではありません。テキサス・インスツルメンツの使用条件を参照してください。

9.3 商標

テキサス・インスツルメンツ E2E™ is a trademark of Texas Instruments.
すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

9.4 静電気放電に関する注意事項

この IC は、ESD によって破損する可能性があります。テキサス・インスツルメンツは、IC を取り扱う際には常に適切な注意を払うことを推奨します。正しい取り扱いおよび設置手順に従わない場合、デバイスを破損するおそれがあります。

ESD による破損は、わずかな性能低下からデバイスの完全な故障まで多岐にわたります。精密な IC の場合、パラメータがわずかに変化するだけで公表されている仕様から外れる可能性があるため、破損が発生しやすくなっています。

9.5 用語集

テキサス・インスツルメンツ用語集　　この用語集には、用語や略語の一覧および定義が記載されています。

10 改訂履歴

資料番号末尾の英字は改訂を表しています。その改訂履歴は英語版に準じています。

日付	改訂	注
May 2025	*	初版リリース

ADVANCE INFORMATION

11 メカニカル、パッケージ、および注文情報

以降のページには、メカニカル、パッケージ、および注文に関する情報が記載されています。この情報は、指定のデバイスに使用できる最新のデータです。このデータは、予告なく、このドキュメントを改訂せずに変更される場合があります。本データシートのブラウザ版を使用されている場合は、画面左側の説明をご覧ください。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

重要なお知らせと免責事項

テキサス・インスツルメンツは、技術データと信頼性データ (データシートを含みます)、設計リソース (リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の黙示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含むいかなる保証も、明示的または黙示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、テキサス・インスツルメンツ製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したものです。(1) お客様のアプリケーションに適した テキサス・インスツルメンツ製品の選定、(2) お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3) お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとします。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている テキサス・インスツルメンツ製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、テキサス・インスツルメンツはその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。テキサス・インスツルメンツや第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、テキサス・インスツルメンツおよびその代理人を完全に補償するものとし、テキサス・インスツルメンツは一切の責任を拒否します。

テキサス・インスツルメンツの製品は、テキサス・インスツルメンツの販売条件、または ti.com やかかる テキサス・インスツルメンツ製品の関連資料などのいずれかを通じて提供する適用可能な条項の下で提供されています。テキサス・インスツルメンツがこれらのリソースを提供することは、適用される テキサス・インスツルメンツの保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案した場合でも、テキサス・インスツルメンツはそれらに異議を唱え、拒否します。

郵送先住所：Texas Instruments, Post Office Box 655303, Dallas, Texas 75265
Copyright © 2025, Texas Instruments Incorporated

PACKAGING INFORMATION

Orderable part number	Status (1)	Material type (2)	Package | Pins	Package qty | Carrier	RoHS (3)	Lead finish/ Ball material (4)	MSL rating/ Peak reflow (5)	Op temp (°C)	Part marking (6)
PUCC256612QDDBRQ1	Active	Preproduction	SOIC (DDB) | 14	2500 | LARGE T&R	-	Call TI	Call TI	-40 to 125	

(1) **Status:** For more details on status, see our product life cycle.

(2) **Material type:** When designated, preproduction parts are prototypes/experimental devices, and are not yet approved or released for full production. Testing and final process, including without limitation quality assurance, reliability performance testing, and/or process qualification, may not yet be complete, and this item is subject to further changes or possible discontinuation. If available for ordering, purchases will be subject to an additional waiver at checkout, and are intended for early internal evaluation purposes only. These items are sold without warranties of any kind.

(3) **RoHS values:** Yes, No, RoHS Exempt. See the TI RoHS Statement for additional information and value definition.

(4) **Lead finish/Ball material:** Parts may have multiple material finish options. Finish options are separated by a vertical ruled line. Lead finish/Ball material values may wrap to two lines if the finish value exceeds the maximum column width.

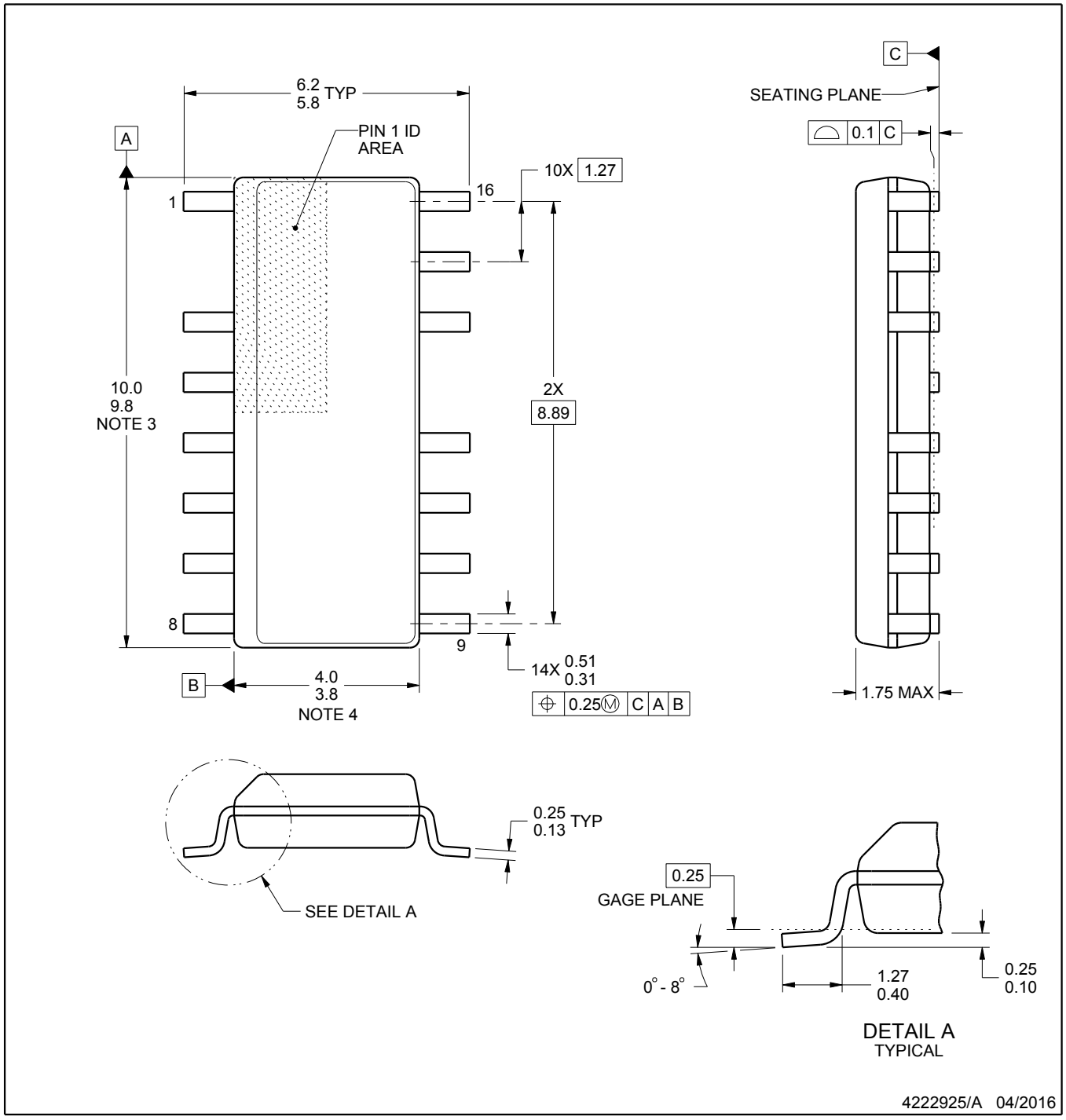
(5) **MSL rating/Peak reflow:** The moisture sensitivity level ratings and peak solder (reflow) temperatures. In the event that a part has multiple moisture sensitivity ratings, only the lowest level per JEDEC standards is shown. Refer to the shipping label for the actual reflow temperature that will be used to mount the part to the printed circuit board.

(6) **Part marking:** There may be an additional marking, which relates to the logo, the lot trace code information, or the environmental category of the part.

Multiple part markings will be inside parentheses. Only one part marking contained in parentheses and separated by a "~" will appear on a part. If a line is indented then it is a continuation of the previous line and the two combined represent the entire part marking for that device.

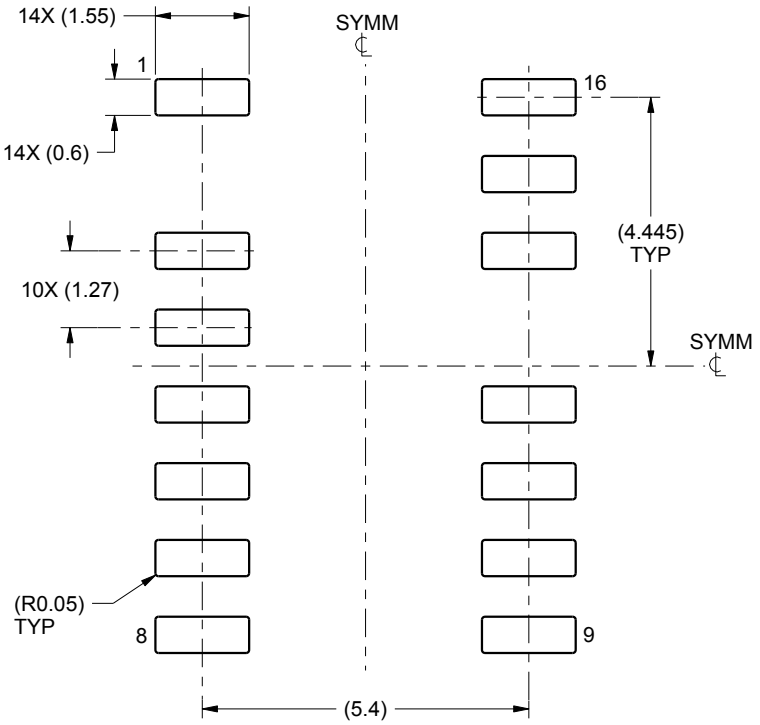
Important Information and Disclaimer: The information provided on this page represents TI's knowledge and belief as of the date that it is provided. TI bases its knowledge and belief on information provided by third parties, and makes no representation or warranty as to the accuracy of such information. Efforts are underway to better integrate information from third parties. TI has taken and continues to take reasonable steps to provide representative and accurate information but may not have conducted destructive testing or chemical analysis on incoming materials and chemicals. TI and TI suppliers consider certain information to be proprietary, and thus CAS numbers and other limited information may not be available for release.

In no event shall TI's liability arising out of such information exceed the total purchase price of the TI part(s) at issue in this document sold by TI to Customer on an annual basis.

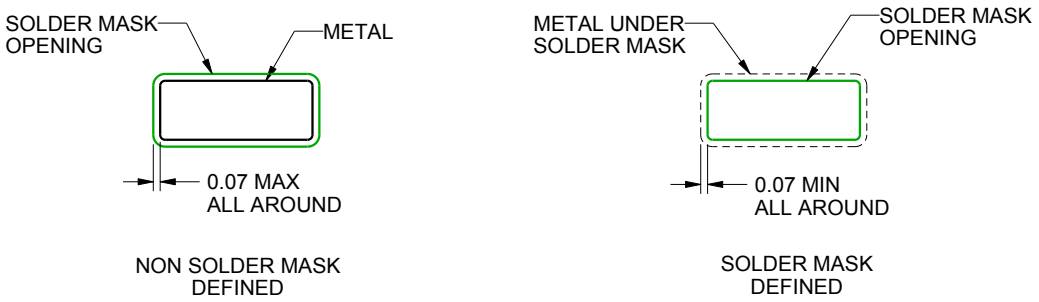


NOTES:

1. All linear dimensions are in millimeters. Dimensions in parenthesis are for reference only. Dimensioning and tolerancing per ASME Y14.5M.
2. This drawing is subject to change without notice.
3. This dimension does not include mold flash, protrusions, or gate burrs. Mold flash, protrusions, or gate burrs shall not exceed 0.15 mm per side.
4. This dimension does not include interlead flash. Interlead flash shall not exceed 0.43 mm per side.
5. Reference JEDEC registration MS-012, variation AC.



LAND PATTERN EXAMPLE
SCALE:8X

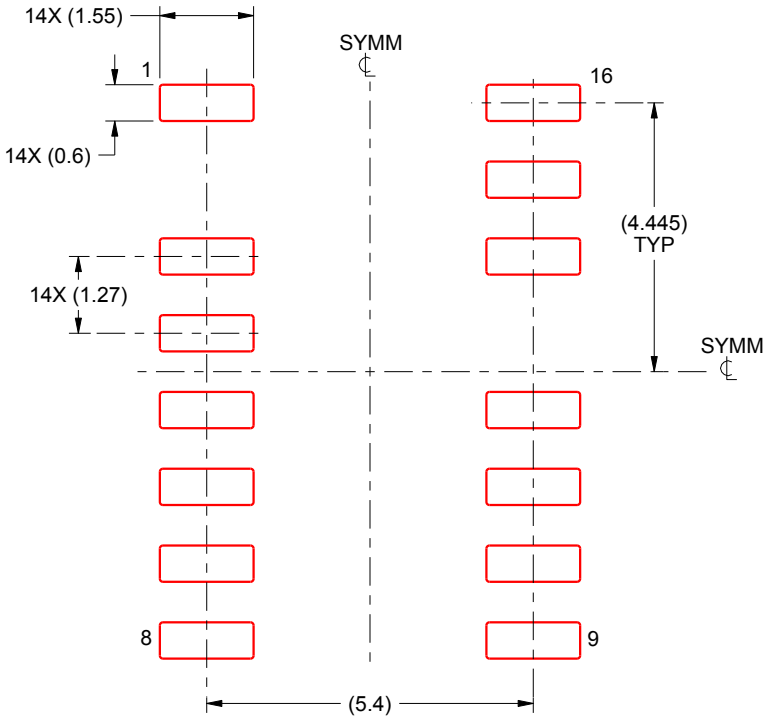


SOLDER MASK DETAILS

4222925/A 04/2016

NOTES: (continued)

6. Publication IPC-7351 may have alternate designs.
7. Solder mask tolerances between and around signal pads can vary based on board fabrication site.



SOLDER PASTE EXAMPLE
BASED ON 0.125 mm THICK STENCIL
SCALE:8X

4222925/A 04/2016

NOTES: (continued)

8. Laser cutting apertures with trapezoidal walls and rounded corners may offer better paste release. IPC-7525 may have alternate design recommendations.
9. Board assembly site may have different recommendations for stencil design.

重要なお知らせと免責事項

テキサス· インスツルメンツは、技術データと信頼性データ (データシートを含みます)、設計リソース (リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の黙示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含むいかなる保証も、明示的または黙示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、 テキサス· インスツルメンツ製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したものです。(1) お客様のアプリケーションに適した テキサス· インスツルメンツ製品の選定、(2) お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3) お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとします。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている テキサス· インスツルメンツ製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、 テキサス· インスツルメンツはその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。 テキサス· インスツルメンツや第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、 テキサス· インスツルメンツおよびその代理人を完全に補償するものとし、 テキサス· インスツルメンツは一切の責任を拒否します。

テキサス· インスツルメンツの製品は、 テキサス· インスツルメンツの販売条件、または ti.com やかかる テキサス· インスツルメンツ製品の関連資料などのいずれかを通じて提供する適用可能な条項の下で提供されています。 テキサス· インスツルメンツがこれらのリソースを提供することは、適用される テキサス· インスツルメンツの保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案した場合でも、 テキサス· インスツルメンツはそれらに異議を唱え、拒否します。

郵送先住所：Texas Instruments, Post Office Box 655303, Dallas, Texas 75265
Copyright © 2025, Texas Instruments Incorporated